

ディスク・オーケストラ

57

CVP-89では、クラビノーバ専用音楽ソフト「ディスク・オーケストラ・コレクション(D.O.C.)」でいろいろなジャンルの演奏を楽しむことができます。付属品として、楽譜とディスクが1セットついていますが、他にもたくさんのタイトルが発売されています。

ここでは、「ディスク・オーケストラ・コレクション」を使って、演奏をきいたり、ディスク・オーケストラといっしょに演奏したり、繰り返し練習したりする機能について説明します。

1. 演奏をきく 58
2. ディスク・オーケストラといっしょに演奏する .. 60
3. ガイド・ランプに合わせて練習する
(ガイド機能) 62
4. フレーズを繰り返し演奏する
(フレーズ・リピート機能) 65
5. フレーズの範囲を指定してリピート練習する
(A-Bリピート機能) 67

1. 演奏をきく

■ピアノプレーヤのためのソフト「ピアノプレーヤ・ソフト」を再生させることもできます。「ピアノプレーヤ・ソフト」は、ピアノソロ（一部は連弾）を集めたディスクです。（一部クラビノーバでは使えない「ピアノプレーヤ・ソフト」もあります。）

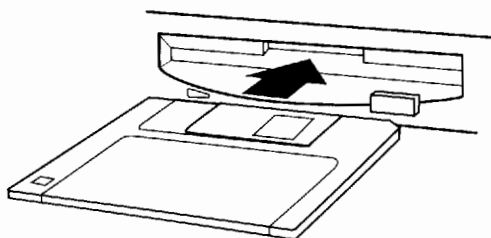
■すでに「ディスク・オーケストラ・コレクション」のディスクが入っていて、[SONG SELECT]のランプがついていないときは、ボタンを押してつけます。

■ディスク・オーケストラ・コレクションの再生音は、MIDI OUT端子からは出力されません。

「ディスク・オーケストラ・コレクション」をきいてみましょう。

1 フロッピー・ディスクを入れる

「ディスク・オーケストラ・コレクション」のディスクを図のような正しい向きと方向でしっかり入れます。



2 曲を選ぶ

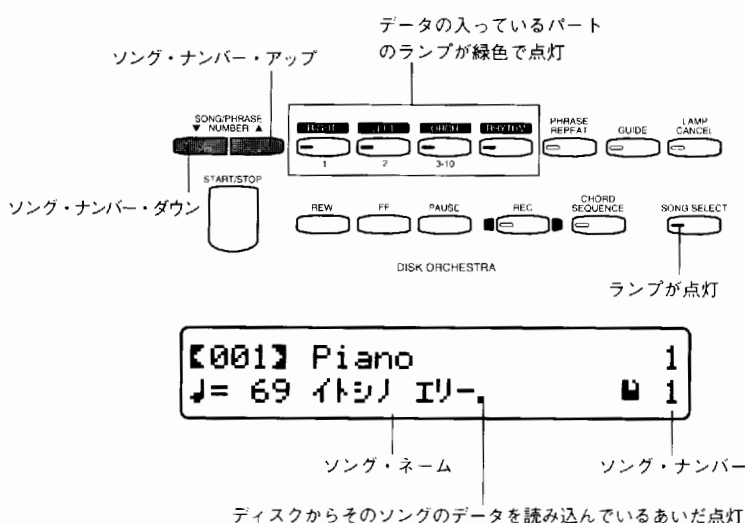
SONG/PHRASE NUMBERの[▼][▲]でききたい曲を選びます。「ALL」を選ぶと、全曲を順番にきくことができます。（ソング・ナンバー1の状態からダウン[▼]を押すと「ALL」になります。）

■ソング・ナンバーを速く変えるとき…
[▼][▲]を押し続けてください。ソング・ナンバーが連続的に変わります。

■現在選択されている曲から全曲再生したいとき…
[UTILITY]を押しながら[START/STOP]を押します。

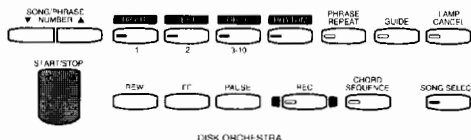
■全曲をランダム（順不同）に再生したいとき…
応用機能UTIL37（→P108）の方法で「ランダム全曲リピート」をONにしておいて、全曲再生します。

■鍵盤ガイド・ランプを消したいとき…
再生中、右手／左手パートで弾かれている鍵盤のガイド・ランプがつきますが、[LAMP CANCEL]を押すと、それを消すことができます。

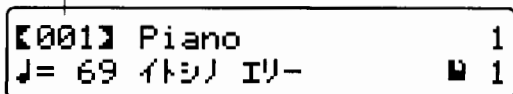


3 演奏をスタートする

[START/STOP]を押します。

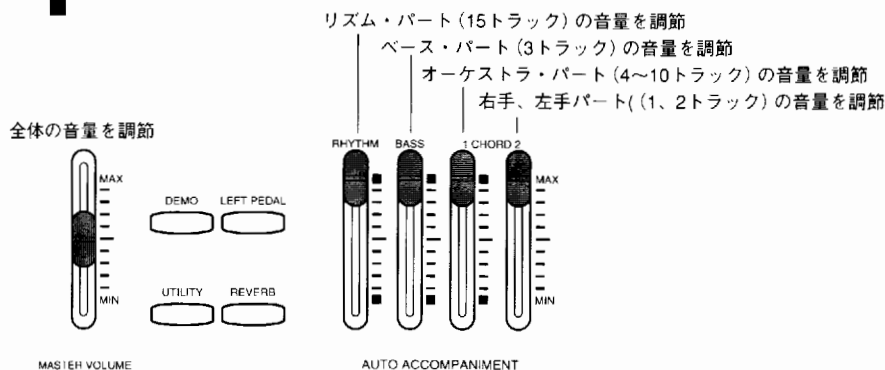


小節番号を表示



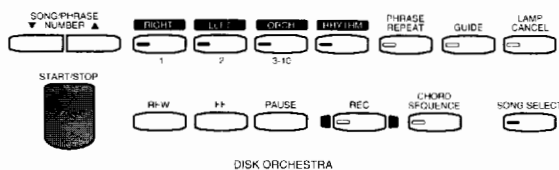
4 音量を調節する

ボリューム・スライダーで音量を調節します。



5 演奏をストップする

途中で演奏を止めるときは[START/STOP]を押します。曲の最後までくると、自動的にストップします。



巻き戻し／早送り／ポーズ (一時停止)

[REW]: (リワインド=巻き戻し)

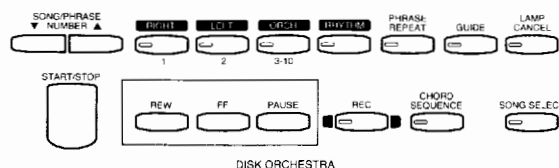
小節を1小節ずつ戻します。押し続けると連続的に戻ります。

[FF]: (フォワード=早送り)

小節を1小節ずつ進めます。押し続けると連続的に進みます。

[PAUSE]: (ポーズ=一時停止)

演奏を一時停止します。もう一度押すとそこから再スタートします。



■リズムの入っていない曲などで、ビートランプが点滅しないものもあります。

■再生中にテンポを変えたいとき…
TEMPO[▼]または[▲]を押します。
TEMPO[▼]と[▲]を同時に押すと、データにセットされているもののテンポに戻ります。(フリーテンポの曲などで、テンポ表示が“---”となるものもあります。)

■ちょっと気をつけて…
曲によっては、小節番号が楽譜と異なって表示されることがあります。

■ちょっと覚えておこう…
ディスク・オーケストラを再生しているとき、[RIGHT]、[LEFT]のパートのみ、別の音色に変えることができます([RIGHT]、[LEFT]は常に同じ音色が使われています)。ただし、曲の途中で音色の切り換えデータが入っていると、もとの設定音色にもどります。また、ソング・ナンバーを変えた場合も、もとの設定音色にもどります。

■曲を選んだ時点では、パートごとの音量はボリューム・スライダーの位置に関係なく、データにセットされている音量で再生されます。

■いろいろなディスクの再生…
「ディスク・オーケストラ・コレクション」以外にも、「パフォーマンス・メモリー」、「ピアノプレーヤー・ソフト」、「ESEQ」、「スタンダードMIDIファイル(フォーマット0と1)」などのディスクを同様に再生することができます。(ただし、スタンダードMIDIファイルのフォーマット1では、[REW][FF]は効きません。)

■ディスクをとり出すとき…
ユーズ・ランプが消えていることを確認してから、イジェクト・ボタンを押します。

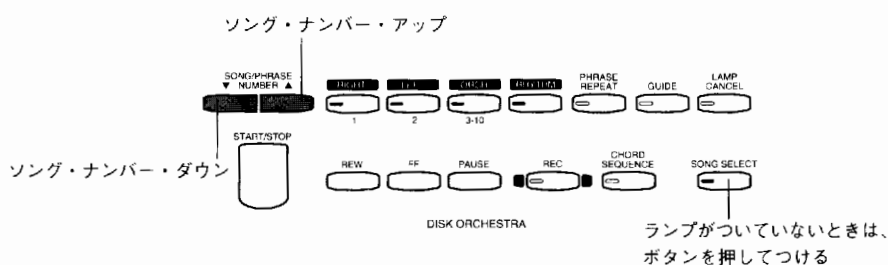
■ちょっと気をつけて…
[REW]の操作をしたときに、音色やテンポ、ボリュームなどが、データにセットされているものと異なって再生される場合があります。

2. ディスク・オーケストラといっしょに演奏する

ディスク・オーケストラ・コレクションの手弾きパート (RIGHT/LEFT) の再生をOFFにして、OFFにしたパートをディスク・オーケストラといっしょに演奏してみましょう。

1 曲を選ぶ

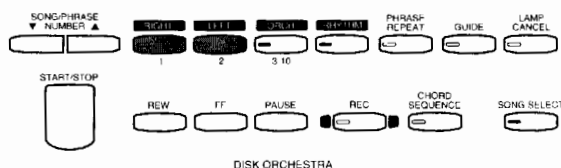
[SONG SELECT]のランプがついていることを確認して、SONG/PHRASE NUMBERの[▼][▲]で演奏したい曲を選びます。



【001】 Piano 1
J= 69 イトシノ エリー 1

2 演奏するパートを選ぶ

演奏するパート ([RIGHT]、[LEFT]のどちらか、または両方) のランプを消して、そのパートの再生をOFFにします。両手で演奏するとき、両方のランプを消します。



■演奏中でも…

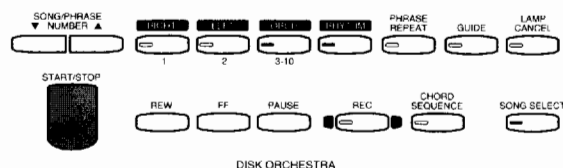
パートのON/OFFを切り換えることができます。

③④ START/STOP ① SONG/PHRASE NUMBER ② TR

3 演奏をスタートする

[START/STOP]を押します。

ディスク・オーケストラに合わせて、OFFにしたパートを演奏してください。



4 演奏をストップする

途中で演奏を止めるときは[START/STOP]を押します。曲の最後までくると自動的にストップします。

■ディスク・オーケストラの再生音を小さくしたいとき…

[RHYTHM][CHORD1][BASS]のボリューム・スライダーで調節します。

■自分の演奏音を小さくしたいとき…

[UTILITY]を押しながら[BASS]のボリューム・スライダーで調節します。

■鍵盤ガイド・ランプを消したいとき…

[LAMP CANCEL]を押します。

■(3-10TR)をパートごとにON/OFFにする…

バックিং・パートである3～10トラックを個別にON/OFFすることもできます。(→P112)

■レフト・ペダルを使う…

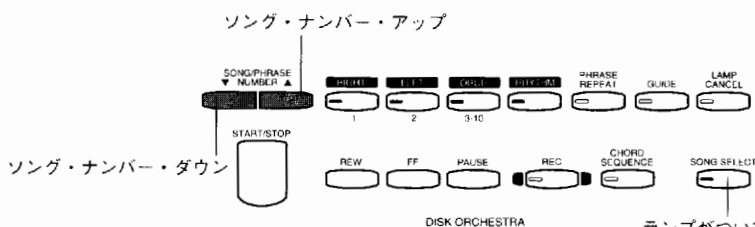
[LEFT PEDAL FUNCTION]をSTART/STOPに設定しておくと、レフト・ペダルが[START/STOP]と同様に機能します。ただし、フレーズ・ナンバーが設定されている「ディスク・オーケストラ・コレクション」では、再生中に踏むと次のフレーズの頭でポーズ(一時停止)となり、もう一度踏むとそこから再スタートします。ピアノコンチェルトのカデンツァなどを演奏するとき有効です。

3. ガイド・ランプに合わせて練習する (ガイド機能)

CVP-89には、ガイド・ランプに合わせて練習できるガイド機能があります。ガイド・ランプが教えてくれる鍵盤を弾くまで、ディスク・オーケストラがあなたを待っていてくれる、やさしい機能です。

1 曲を選ぶ

[SONG SELECT]のランプがついていることを確認して、SONG/PHRASE NUMBERの[▼][▲]で練習したい曲を選びます。

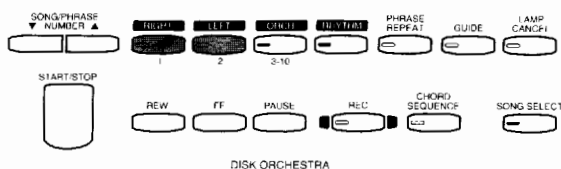


ランプがついていないときは、ボタンを押してつける

【001】 Piano 1
J= 69 イトシノ エリー 1

2 練習するパートを選ぶ

練習するパート ([RIGHT]、[LEFT]のどちらか、または両方) のランプを消して、そのパートの再生をOFFにします。両手で練習するときは、両方のランプがついていてもOKです。



■演奏中でも…

パートのON/OFFを切り換えることもできます。

⑤ LAMP

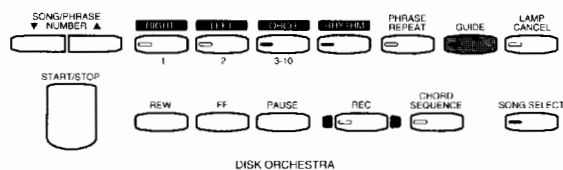
④ ⑥ START/STOP

① SONG/PHRASE NUMBER

② RIGHT/1 LEFT

3 ガイド機能を選ぶ

[GUIDE]を押してランプをつけます。



■ガイド機能を選んでいる時は、[REW][FF][PAUSE]ボタンは効きません。

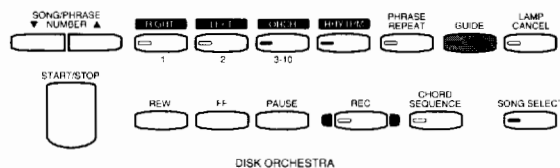
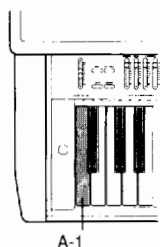
ガイドの方法を選ぶ

ガイド機能には、ディスク・オーケストラが待っていてくれる方法として次の2種類があります。

A. 楽譜どおりの音を弾くまで待ってくれる方法

[GUIDE]を押しながら一番左端の白鍵を押します。

ガイド・ランプがついている鍵盤を正しく弾くまでディスク・オーケストラが待ってくれます。

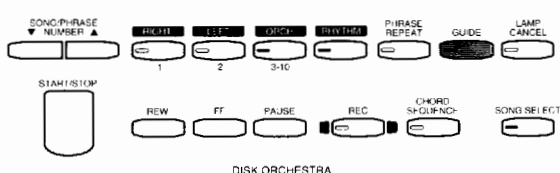
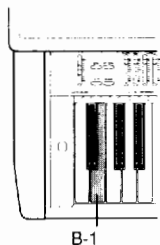


【001】 Piano 1
♩= 69 GUIDE

B. だいたい弾ければ曲が進んでくれる方法

[GUIDE]を押しながら左端から2番目の白鍵を押します。

ガイド・ランプがついている鍵盤をだいたい弾けていれば曲が進みます。



【001】 Piano 1
♩= 69 GUIDE 2bar

■電源を入れたとき…

Aの方法になっているので、このままでよいときはモードを選ぶ必要はありません。

■Bでは、鍵盤ガイド・ランプが示している鍵盤を弾かなくても、そこから4分音符8つ分(=4/4拍子で2小節分)まではディスク・オーケストラが止まらず進みます。

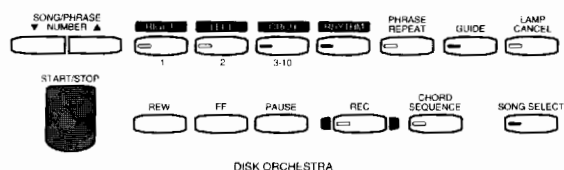
■演奏中でも…

[GUIDE]を押せば、ガイド機能のON／OFFができます。

4

演奏をスタートする

[START/STOP]を押します。



5

ガイド・ランプに合わせて演奏する

ガイド・ランプのついた鍵盤を弾くと、曲が先へ進みます。

6

演奏をストップする

途中で演奏を止めるときは[START/STOP]を押します。曲の最後までくると自動的にストップします。

ガイド機能を解除するときには[GUIDE]を押してランプを消します。

4.フレーズを繰り返し演奏する (フレーズ・リピート機能)

「ディスク・オーケストラ・コレクション」の楽譜に書いてあるフレーズ・ナンバーを指定して、そのフレーズだけ繰り返して練習することができます。たとえば、次の楽譜で[1]を選ぶと[1]の4小節だけが繰り返されます。

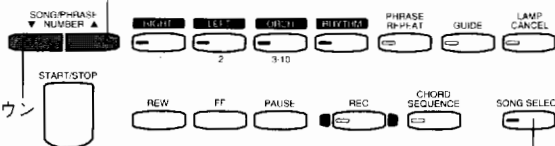


■「ディスク・オーケストラ・コレクション」でフレーズ・ナンバーがない曲では、フレーズ・リピートはできません。

1 ソング・ナンバーを選ぶ

[SONG SELECT]のランプがついていることを確認して、SONG/PHRASE NUMBERの[▼][▲]で練習したい曲を選びます。

ソング・ナンバー・アップ



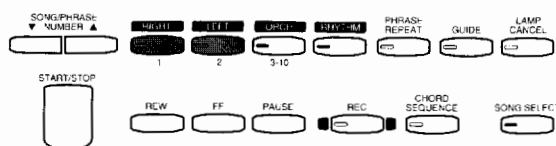
DISK ORCHESTRA

ランプがついていないときは、ボタンを押してつける

【0011】 Piano 1
♩ = 69 イトシノエリー 1

2 練習するパートを選ぶ

練習するパート ([RIGHT][LEFT]のどちらか、または両方) のランプを消して、そのパートの再生をOFFにします。両手で練習するときは、両方のランプを消します。



DISK ORCHESTRA

■演奏中でも…

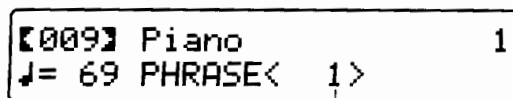
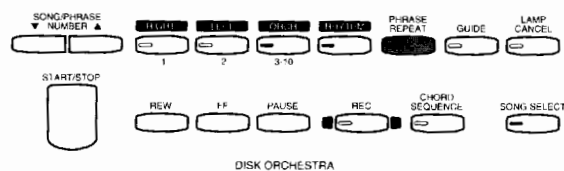
パートのON/OFFを切り換えることもできます。

■ガイド機能も同時に使えます。

- ①④ SONG/PHRASE NUMBER
- ⑤⑥ START/STOP
- ② RIGHT/1 LEFT/2
- ③ PHRASE REPEAT

3 フレーズ・リピート機能を選ぶ

[PHRASE REPEAT]を押してランプをつけます。

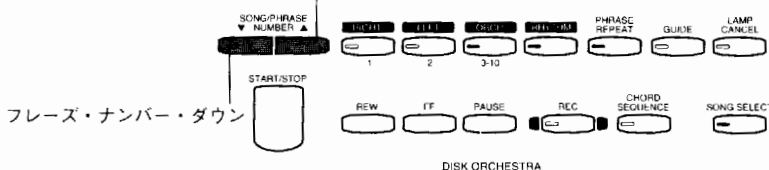


フレーズ・ナンバー

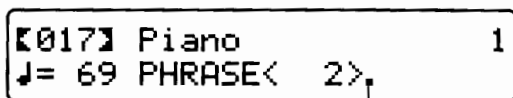
4 練習するフレーズを選ぶ

フレーズ・リピート機能がONのときは、LCDにフレーズ・ナンバーが表示されますので、SONG/PHRASE NUMBERの[▼][▲]で練習したいフレーズ・ナンバーを選びます。

フレーズ・ナンバー・アップ



フレーズ・ナンバー・ダウン

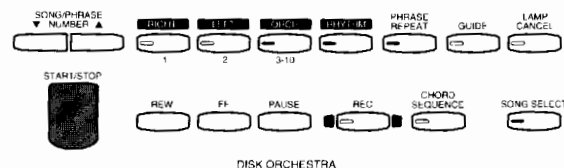


ディスクからそのフレーズのデータを読み込んでいるあいだ点灯

5 練習をスタートする

[START/STOP]を押します。

1小節のカウント音に続いて、選んだフレーズが繰り返し再生されますので、それに合わせて練習してください。



6 練習をストップする

[START/STOP]を押します。

フレーズ・リピート機能を解除するときは[PHRASE REPEAT]を押してランプを消します。

■リズムの入っていない曲などで、カウント音の入らない曲もあります。

5. フレーズの範囲を指定して リピート練習する (A-Bリピート機能)

フレーズの範囲 (A点とB点) を自由に指定して、繰り返し練習することができます。たとえば、次の楽譜のようにA点、B点を指定すると、その間だけが繰り返されます。



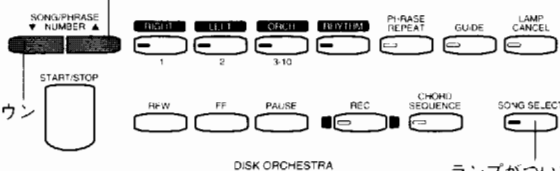
■いろいろなファイルで使える…
パフォーマンス・メモリーで録音した曲
やピアノプレーヤ・ソフト、ESEQファイル、
SMFファイルでもA-Bリピート機能を使う
ことができます。

67

1 曲を選ぶ

[SONG SELECT]のランプがついていることを確認して、SONG/
PHRASE NUMBER[▼][▲]で練習したい曲を選びます。

ソング・ナンバー・アップ

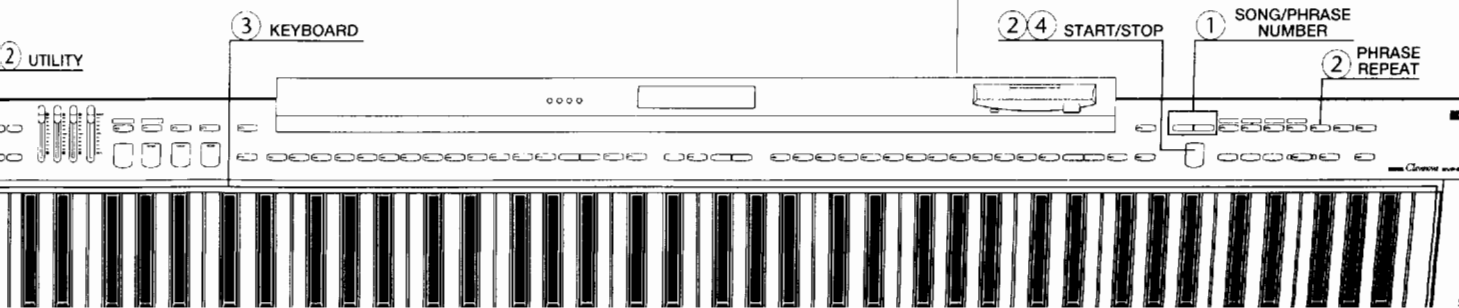


ソング・ナンバー・ダウン

DISK ORCHESTRA

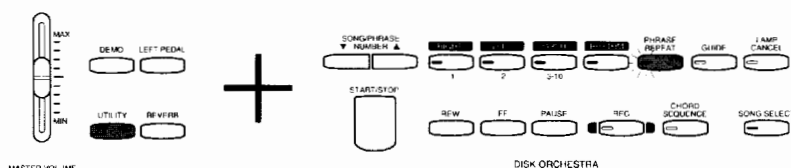
ランプがついていないときは、
ボタンを押してつける

【001】 Piano 1
♩= 69 イシノ エリー 1



2 A点（フレーズのはじめ）B点（フレーズの終わり）を指定する

1. [START/STOP]を押して曲を再生します。
2. [UTILITY]を押しながら、A点にしたいところで[PHRASE REPEAT]を押します。A点が設定され、[PHRASE REPEAT]のランプが点滅します。



【009】 Piano 1
J= 69 PHRASE<A- >

3. B点にしたいところでもう一度[PHRASE REPEAT]を押します。
B点が設定され、[PHRASE REPEAT]のランプが点滅から点灯
に変わります。

【016】 Piano 1
J= 69 PHRASE<A-B>

3 繰り返し練習する

B点が設定されると自動的にA点に戻り、1小節のカウント音に続いてA-B間のフレーズが繰り返し再生されます。練習するパートの再生をOFFにして、練習してください。

4 演奏をストップする。

[START/STOP]を押します。

一度A点、B点を指定すると、ソング・ナンバーを変えるまで有効です。何度でもフレーズ・リピート機能の操作に従って、A-Bリピート練習をすることができます（A点、B点を指定しておくと、フレーズ・ナンバーを選ぶとき、「A-B」も表示されますのでフレーズ・ナンバーを選ぶ操作で「A-B」を選んでください）。

A-Bリピート機能を解除するときは[PHRASE REPEAT]を押してランプを消します。

■同じ曲の中で別のA点-B点を指定したいときは…

[PHRASE REPEAT]を押してランプを
消し、手順2からやり直してください。
前回指定したA点-B点は自動的に消
え、新しいA点-B点が指定されます。

■ **ソング・ナンバーを変更すると…**
指定したA点、B点は解除されます。

フロッピー・ディスクについて

「ディスク・オーケストラ・コレクション」や「ディスク・スタイル」のディスクには、すでにデータが書き込まれています。これから説明する「パフォーマンス・メモリー」では、なにもデータの入っていないディスク(新しいディスク)を使います(CVP-89には、新しいディスク(録音用ブランク・ディスク)が1枚ついてきます)。

ここでは、これらのフロッピー・ディスクを扱う上での注意と、新しいディスクや他の機器で使っていたディスクをCVP-89で初めて使うときに必要なフォーマット(初期化)の操作について説明します。

フロッピー・ディスクの取り扱い.....	70
フロッピー・ディスクのフォーマット(初期化)	72



フロッピー・ディスクの取り扱い

フロッピー・ディスクは、扱いかたを間違えると記録したデータを失いかねません。フロッピー・ディスクとディスク・ドライブ・ユニットをご愛用いただくために、ご使用時には以下のことをお守りください。

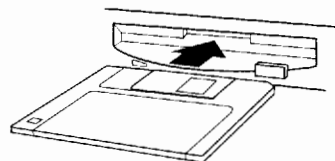
フロッピー・ディスクの種類

この製品には市販の「3.5インチ2DDマイクロ・フロッピー・ディスク」をご使用ください。

フロッピー・ディスクの挿入／取り出し

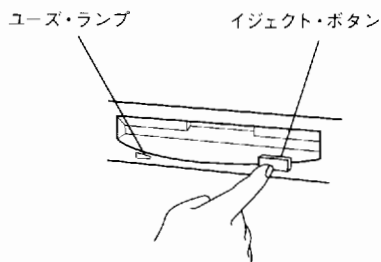
■フロッピー・ディスクの入れかた

フロッピー・ディスクのシャッターに文字が書かれている方(表面)を上にして、イラストのように、ディスク挿入口にカチッと音がするまでいねいに差し込みます。



■フロッピー・ディスクをディスク挿入口から取り出すときのご注意

・ディスク挿入口左下のユーズ・ランプが消えたことを確認した後(ディスク・ドライブが実行中でないことを確認した後)、イジェクト・ボタンをしっかりと正確に押し、フロッピー・ディスクが完全に出たことを確認してから取り出してください。



・イジェクト・ボタンを中途半端に押したり、あわてて押すと、取り出し機構が正常に作動せず、フロッピー・ディスクが途中で引っかかり取り出せなくなる場合があります。この場合、無理にフロッピー・ディスクを取り出そうとすると、ディスクがこわれたり、ディスク・ドライブ・ユニットが故障したりする原因になります。このような場合は、もう一度イジェクト・ボタンを押しなおすか、またはフロッピー・ディスクをディスク挿入口に完全に押し込んで、もう一度イジェクト・ボタンをしっかりと正確に押しなおして取り出してください。

■録音中や再生中などは絶対にフロッピー・ディスクを取り出さないでください。ディスクのデータがこわれるだけでなく、ディスク・ドライブ・ユニットの故障の原因になります。

■電源を切るときは、フロッピー・ディスクはあらかじめディスク・ドライブ・ユニットから取り出してください。電源を切った後、フロッピー・ディスクを入れたまま長時間放置すると、ディスクが汚れ、データの読み書きにエラーが生じる原因になります。

■イジェクト・ボタンを押してディスクが半分出た状態(ディスクを手で抜き取っていない状態)のままで、キー・カバーを開閉しないでください。キー・カバーとディスクが接触してディスクやディスク・ドライブ・ユニットが破損するおそれがあります。

磁気ヘッドの定期的なクリーニング

- ・ディスク・ドライブ・ユニットは高精度の磁気ヘッドを使用しています。ディスク・ドライブ・ユニットを長時間使用していくうちに、磁気ヘッドはフロッピー・ディスクの磁性粉で汚れてきます。磁気ヘッドが汚れてくると、録音や再生(データの書き込みや読み取り)にエラーが生じることがあります。
- ・ディスク・ドライブ・ユニットを良い状態でお使いいただくために、磁気ヘッドを定期的に(1ヵ月に1回程度)クリーニングしていただくことをお勧めします。
- ・磁気ヘッドのクリーニングには、市販の「乾式ヘッド・クリーニング・ディスク」をご使用ください。なお、巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点で、ヤマハ推奨の「乾式ヘッド・クリーニング・ディスク」をお求めいただくこともできます。

フロッピー・ディスクについてのご注意

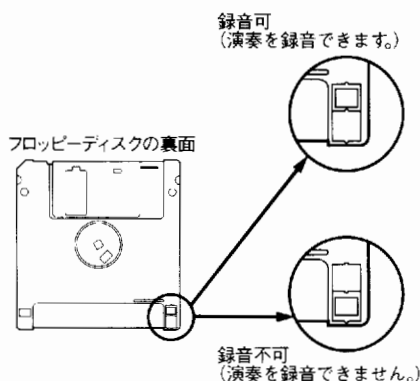
■フロッピー・ディスクの取り扱いと保管

フロッピー・ディスクの中にはデータを記録する磁性体が入っています。性体を保護し、さらにフロッピー・ディスクユニットの磁気ヘッドを防護するために、以下の点にご注意ください：

- ・(持ち運ぶ場合も含めて)必ず市販のケースに入れて保管し、落としたり、物を乗せたり、折り曲げたりしないでください。また、ディスク内部に水やほこりなどが入らないようにしてください。
- ・ディスクのシャッターを開けて、内部の磁性体にふれないでください。
- ・磁気を帯びたもの(テレビやスピーカーなど)には近づけないでください。
- ・直射日光の当たる場所や、過度に高温/低温の場所、多湿な場所などに置かないでください。
- ・シャッターやディスク本体が変形しているようなフロッピー・ディスクは絶対に使用しないでください。
- ・フロッピー・ディスクにはラベル以外のもの(メモなど)を貼らないでください。また、ラベルは所定の位置にはがれないようにしっかりと貼ってください。

■誤消去防止

フロッピー・ディスクには、誤ってデータを消してしまうことがないようにライトプロテクト・タブが付いています。大切なデータの入っているディスクは、ライトプロテクト・タブをオン(タブの窓が開いた状態)にして書き込みができないようにしてください。



■データのバックアップ

フロッピー・ディスクの万一の事故に備えて、大切なデータは、バックアップとして予備のディスクに保存しておかれることをお勧めします。

- 市販フロッピー・ディスクの中には粗悪品もございます。メーカー名をお確かめの上、お求めください。



フロッピー・ディスクのフォーマット(初期化)

新しいディスクや他の機器で使っていたディスクはそのままでは使うことができません。CVP-89で使えるように最初にフォーマット(初期化)しておく必要があります。

使用中のディスクをフォーマットすると、それまでディスクに記録されていたデータは全部消えてしまいますのでご注意ください。

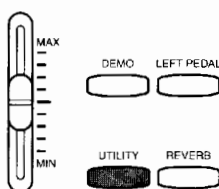
1 フロッピー・ディスクを入れる

フロッピー・ディスクを正しい向きと方向でディスク挿入口に差し込みます。フォーマットされていないディスクを入れた場合、LCDに「UNFORMATTED DISK !」が表示されます。

【001】 Piano 1
J= 78 UNFORMATTED DISK !

2 [UTILITY]を押す

[UTILITY]を押します。[UTILITY]を押している間、LCDにつぎのように表示されます。



0000▶13 DISK FORMAT
PRESS [START]

3 [START]を押す

つづけて[UTILITY]を押したまま、[START/STOP]を押すと、LCDはつぎのように変わります。

0000▶13 DISK FORMAT
ARE YOU SURE?

4 YESかNOを選ぶ

フォーマットを実行したい場合、TEMPO[▲](Yes)を押すと、フォーマットがはじまります。LCDにはカウントダウン(F80...END)が表示されます。

なお、中止したい場合は、TEMPO[▼](No)を押します。
(TEMPO[▲](YES)を押してからでは中止できません。)

0000▶13 DISK FORMAT
F80

フォーマットが終了するとLCDは通常の表示に戻ります。

■この段階でフォーマットを中止したいときは、[UTILITY]か[START/STOP]を押して下さい。

■再フォーマットするには…
一度フォーマットされた使用中のディスクを再フォーマットしたい場合は、[UTILITY]を押しながら[TAP]/[METRONOME]を押して“手順2”の表示を選択したあと、“手順3、4”にしたがって行きます。
[UTILITY]の基本的な使用法はP95の応用機能をご覧ください。

■ちょっと覚えておこう…

「DISK PROTECTED !」と表示されたときは、ライト・プロテクト・タブが記録不可になっています。記録可の位置にしてからフォーマットを行ってください。
「ディスク・オーケストラ・コレクション」「ピアノプレーヤー・ソフト」のディスクは大切なデータを消してしまわないようにするため、フォーマットできないようになっています。ピアノプレーヤーでフォーマットされたディスクも、クラブノーバではフォーマットできません。



パフォーマンス・メモリー

73

CVP-89には、フロッピー・ディスクに自分の演奏を録音／再生できるパフォーマンス・メモリーがあります。パフォーマンス・メモリーには、10個のトラックとリズムトラックが用意されており、10種類の楽器の演奏をパート別に重ねて録音して、ひとつの曲として仕上げることができます。このようにしてできたものをソングと言い、1枚のフロッピー・ディスクに60ソングまで保存しておくことができます。（1ソングのデータが大きい場合は、60ソングより少なくなってしまうこともあります。）ここでは、ソングとして仕上げるための録音方法や、覚えておくと便利な編集方法について説明します。

ソングの構成について	74
演奏を録音／再生する	74
ABC／ソロ・スタイルプレイで録音する	76
コード・シーケンスで録音する	78
多重録音をする	80
フロッピー・ディスクの編集	83
録音／再生のヒント	88



ソングの構成について

パフォーマンス・メモリーで録音して作ることができるソングの構成例を示しておきます。

1曲(1ソング)の構成例		
ピアノ(右手メロディ)パート	トラック 1	— [RIGHT/1] ボタンに対応
ピアノ(左手メロディ)パート	2	— [LEFT/2] ボタンに対応
ベースパート	3	
ストリングパート	4	
ギターパート	5	
ブラスパート	6	— [ORCH/3~10] ボタンに対応
フルートパート	7	
〇〇〇パート	8	
〇〇〇パート	9	
〇〇〇パート	10	
リズムパート	15	— [RHYTHM] ボタンに対応

トラックごとに何のパートを入れるかは、自由に決めることができます。
リズム(スタイルを録音する場合)は、15トラックに固定です。

■パフォーマンス・メモリーの再生音は、
MIDI OUT端子からは出力されません。

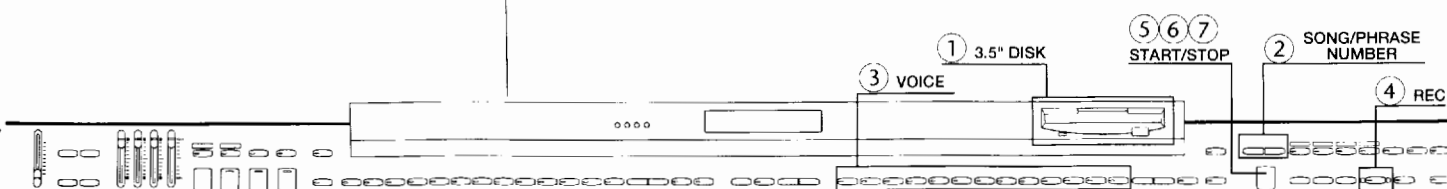
演奏を録音／再生する

はじめに1トラックだけの録音／再生をしてみましょう。

■フォーマットされていない
ディスクを入れた場合…
"UNFORMATTED DISK !"が表示され
ます。72ページの方法でフォーマット
してください。

1 フォーマット済みのディスクを入れる

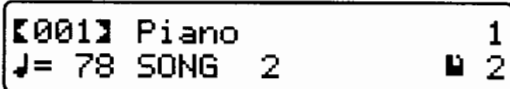
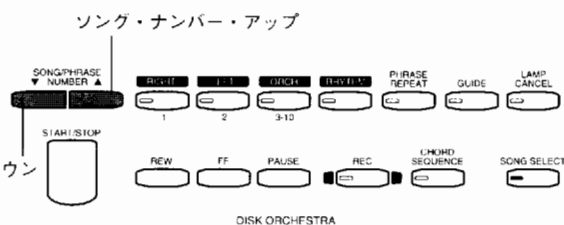
フォーマット済みのディスクを差し込みます。[SONG SELECT]の
ランプがつきます。すでにディスクが入っていて、[SONG SELECT]
のランプがついていないときは、ボタンを押してランプをつけます。





2 録音するソング・ナンバーを選ぶ

SONG/PHRASE NUMBER[▼][▲]でソング・ナンバーを選びます。



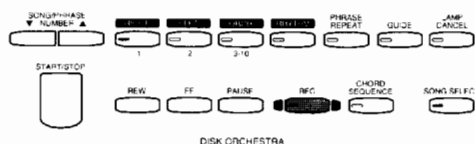
3 音色を選ぶ

VOICEボタンで、録音する音色を選びます。



4 録音する

[REC]を押して、ランプをつけます。このとき同時に[RIGHT/1]のランプも赤色につきます。



(ここで録音を中止したい場合は、[REC]をもう一度押してランプを消してください。)

演奏を始めると、録音が始まります。

[START/STOP]を押して録音を始めることもできます。

録音中はLCDに「[]」のマークがでます。

■ちょっと気をつけて…

[RIGHT/1][LEFT/2][ORCH/3-10][RHYTHM]のどれかのランプが緑色でついている場合は、すでにデータが録音されています。別のソング・ナンバーを選ぶか、87ページの方法で演奏データを消してから録音してください。

■[REC]を押したあと…

LCDにディスクの記憶残容量、録音トラック、録音済みトラックが表示されます。容量単位はkbyte(キロバイト)で、何も録音されていないときは約707kbyteです(およそ57,000音分ですが、機能をたくさん使うと減ります)。また、記憶残容量がなくなると"DISK FULL"の表示になります。

■メトロノームにあわせて録音するとき…

1. 音色を選んだあと、[METRONOME]を押して、TEMPO[▲][▼]でテンポを指定します。
2. [REC]を押して、ランプをつけます。
3. 鍵盤の演奏と同時に録音が始まります。(このとき、メトロノーム音は録音されません。)

■リズムといっしょに録音するとき…

1. 音色を選んだあと、スタイルを選び、TEMPO[▲][▼]でテンポを指定します。
2. [REC]を押してランプをつけたあと、[RHYTHM]を押して[RHYTHM]と[RIGHT/1TR]のランプが赤色についていることを確認します。LCDの録音トラック表示も1+Rとなります。このとき、メトロノーム音が鳴ります。
3. 鍵盤の演奏と同時に録音が始まります。

■ちょっと覚えておこう…

[REC]を押したあとに、音色やスタイルを選び直すことも可能です。このとき、LCDに音色名やスタイル名が表示されます。

■録音が終わったあと…

「[WRITING...]」が表示されている間は、ディスクにデータが書き込まれています。書き込みが終わると、録音したパートのランプが緑色に変わり、再生スタンバイになります。

■ディスクを入れていないとき…

短い曲であればそのまま本体に録音することができます(最大約2,200音分(28kbyte)ですが、機能をたくさん使うと減ります)。ただし、電源を切ったり別の曲が読み込まれた時点で消えてしまいます。(パフォーマンス・メモリーのディスクを入れて[SONG SELECT]を押したり、[ディスク・オーケストラ・コレクション][ディスク・スタイル][ピアノプレーヤー・ソフト]のディスクを入れたりした場合、本体に録音した曲は消えてしまいます。)保存しておきたい場合は録音用のディスクを入れ、83ページの手順3以降にしたがってディスクにコピーしてください。



■再生中に…

- スタイルやテンポを変えることができます。
- [REW][FF][PAUSE]の操作ができます。
- 再生音に合わせて、好きな音色で演奏することができます。(再生音色は変えることはできません。)

5 録音をストップする

[START/STOP]か[REC]を押します。

6 再生する

[START/STOP]を押して曲をスタートします。

7 再生をストップする

曲の途中でストップしたいときは[START/STOP]を押します。曲の最後までくると自動的に止まります。

ABC／ソロ・スタイルプレイで録音する

ABCやソロ・スタイルプレイなど、CVP-89の多彩な演奏機能を使って録音してみましょう。

1 フォーマット済みのディスクを入れる

フォーマット済みのディスクを差し込みます。[SONG SELECT]のランプがつきます。すでにディスクが入っていて、[SONG SELECT]のランプがついていないときは、ボタンを押してランプをつけます。

2 録音するソング・ナンバーを選ぶ

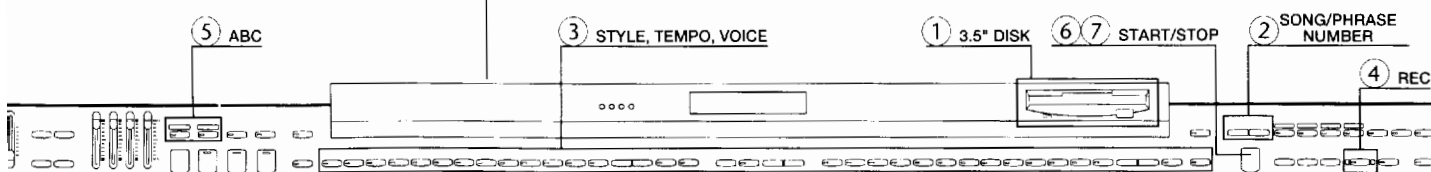
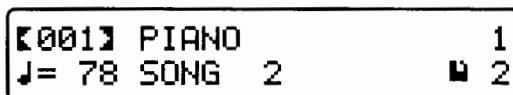
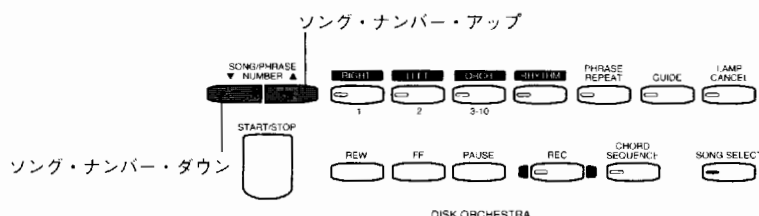
SONG/PHRASE NUMBER[▼][▲]でソング・ナンバーを選びます。

■フォーマットされていないディスクを入れた場合…

"UNFORMATTED DISK !"が表示されます。72ページの方法でフォーマットしてください。

■ちょっと気をつけて…

[RIGHT/1][LEFT/2][ORCH/3-10][RHYTHM]のどれかのランプが緑色でついている場合は、すでにデータが録音されています。別のソング・ナンバーを選ぶか、87ページの方法で演奏データを消してから録音してください。



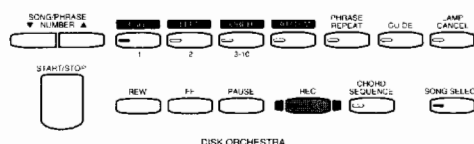


3 音色、伴奏スタイルを決める

演奏する音色、伴奏スタイルを選んで、テンポを指定します。

4 録音の準備をする

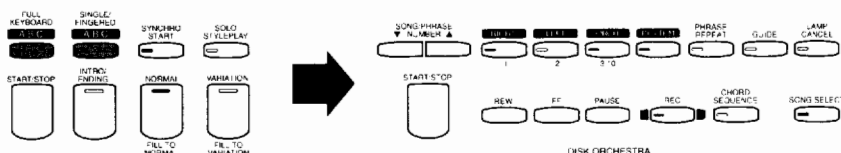
[REC]を押して、ランプをつけます。このとき同時に[RIGHT/1]のランプも赤色につきます。



【001】 BEG TRACK 1 707
J= 78 ~~~~~

5 ABCの種類を選ぶ

[FULL KEYBOARD][SINGLE/FINGERED]のどちらかを押します。
[ORCH/3-10][RHYTHM]のランプが赤色につきます。
このときメトロノームが鳴りだします。



【001】 BEG ABC+R 707
J= 78 Pop 1

ソロ・スタイルプレイを使うときは[SOLO STYLEPLAY]を押してランプをつけてください。このとき、[SINGLE/FINGERED]のランプも点灯します。フル・キーボードABCではソロ・スタイルプレイを使えません。ソロ・スタイルプレイのパートは11～14トラックに録音されます。

6 録音する

演奏を始めると、録音が始まります。リズムを先にスタートさせたい場合は、[START/STOP]を押します。

7 録音をストップする

[START/STOP]か[REC]を押します。

■「ディスクスタイル」を使うとき…
録音用のフロッピー・ディスクを入れる前に[DISK STYLE 1]か[DISK STYLE 2]に記憶させておいてください。(P49)

■ちょっと覚えておこう…
*[REC]を押したあと、[RIGHT/1][LEFT/2][ORCH/3-10][RHYTHM]すべてのランプを消すことはできません。
*[REC]を押したあとに、音色やスタイルを選び直すことも可能です。このとき、LCDに音色名やスタイル名が表示されます。

■トラック構成は…
1トラックに手弾きパート、3～10トラックにABCパート、リズム・トラックにリズム・パートが録音されます。
2トラック選んで、2トラックに手弾きパートを録音することもできます。

■バックアップだけを録音する方法1…
[RIGHT/1][LEFT/2]のランプを消しておけば、バックアップだけ録音することができます。

■バックアップだけを録音する方法2…
コード・シーケンス(P78)を使うと、ステップ・バイ・ステップで録音することができます。

■イントロをつけるとき…
演奏を始めの前に[INTRO/ENDING]を押しておけば、イントロ・パターンから録音することができます。

■フィル・インを入れるとき…
演奏の途中で[FILL TO NORMAL][FILL TO VARIATION]を押してフィル・インを入れると、演奏にメリハリがつけます。

■エンディング・パターンで終わるとき…
[INTRO/ENDING]を押すと、エンディング・パターンを演奏したあと、自動的にストップします。

■ABCで録音したデータを再生するときの音量調節について…
ABCの各パートの音量を、[RHYTHM][BASS][CHORD 1][CHORD 2]のボリューム・コントロールで調節できます。



コード・シーケンスで録音する

■コード・シーケンスだけの録音では...

1枚のディスクに最大55曲まで録音できます。

■フォーマットされていないディスクを入れた場合...

"UNFORMATTED DISK !"が表示されます。72ページの方法でフォーマットしてください。

■ちょっと気をつけて...

[RIGHT/1][LEFT/2][ORCH/3-10][RHYTHM]のどれかのランプが緑色でついている場合はすでにデータが録音されています。別のソング・ナンバーを選ぶか、87ページの方法で演奏データを消してから録音してください。

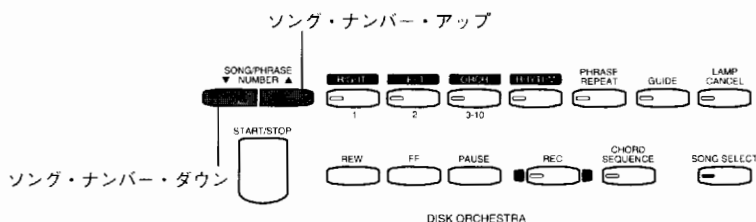
コード・シーケンスを使ってバックギンを録音してみましょう。リズムに合わせて弾かなくても、楽譜を見ながら1小節または1拍ずつステップ・バイ・ステップで録音できます。

1 フォーマット済みのディスクを入れる

フォーマット済みのディスクを差し込みます。[SONG SELECT]のランプがつきます。すでにディスクが入っていて、[SONG SELECT]のランプがついていないときは、ボタンを押してランプをつけます。

2 録音するソング・ナンバーを選ぶ

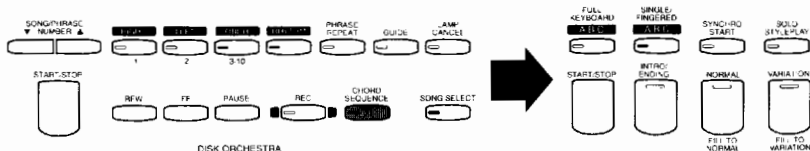
SONG/PHRASE NUMBER[▼][▲]でソング・ナンバーを選びます。



【001】 Piano 1
♩=120 SONG 2 2

3 コード・シーケンスを選ぶ

[CHORD SEQUENCE]を押してランプをつけます。このとき同時に[ORCH/3-10][RHYTHM]のランプも赤色につきます。このとき、[SINGLE/FINGERED]のランプが自動的につきます。



4 スタイルを選ぶ

スタイルを選び、再生するときのテンポもここで指定しておきます。

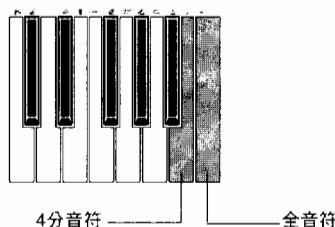
■「ディスク・スタイル」を使うとき...

録音用のフロッピー・ディスクを入れる前に[DISKSTYLE1]か[DISKSTYLE2]に使うスタイルを記憶させておいてください。(P49)



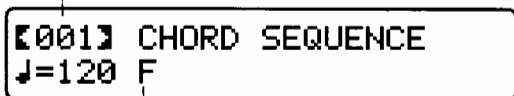
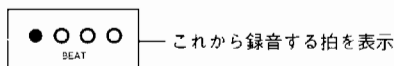
5 コードを録音する

左手(低音部)でコードを押さえたまま、右手で全音符(♩)＝右端の鍵盤や4分音符(♪)＝右端から2番目の鍵盤を押して録音します。



LCDに小節、コード・ネーム、"BEAT"に拍が表示されています。

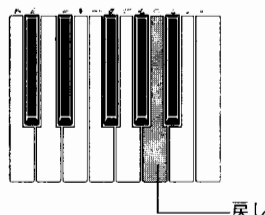
これから録音する小節を表示



押さえたコード・ネームを表示

6 間違いを直す

[戻し]の鍵盤を押すごとに1拍前に戻ります。



小節、拍の表示を見ながら間違えたところまで戻って、録音をやり直します。

7 録音を終わる

[CHORD SEQUENCE]を押します。

録音したシーケンス・データがパフォーマンス・メモリーに変換されて、ディスクに保存されます。

このあと録音したバックキングを再生しながら1、2トラックにメロディを録音することもできます。(→P80「多重録音をする」参照)

■曲の途中で伴奏スタイルを変更するとき…

変更したい場所のコードを録音する前に、スタイル、テンポ、フィル・インなどを指定しておきます。

■コードの押さえ方について…

シングル・フィンガー、フィンガードのどちらの押さえ方でも有効です。

■2分音符を録音するとき…

4分音符の鍵盤を続けて2回押します。

■3拍子のスタイルを選んでいるとき

♩(全音符)を押すと、1小節分(♩=3拍子分)進みます。

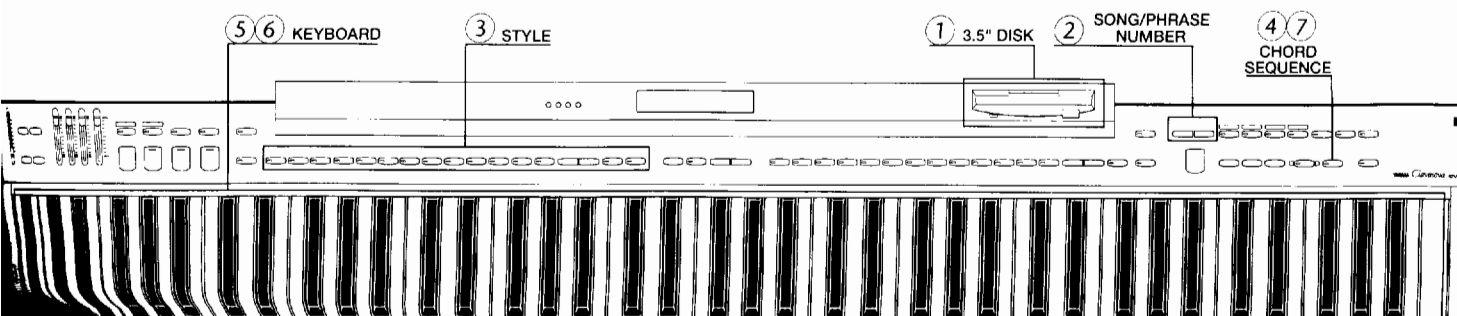
■リズムだけ録音するとき…

3-10トラックのバックキングを録音せずに、リズムだけ録音したい場合は、左手のコードを押さえずにノーマル、バリエーション、フィル、イントロ、エンディングなどをセットして、4分音符または全音符の鍵盤だけを押していきます。

■曲の途中から直したいとき…

1. 曲を再生させ、直したい場所でポーズさせます([REW][FF]を使うこともできます)。その後、[CHORD SEQUENCE]を押すと[ORCH/3-10][RHYTHM]のランプがつきます。リズムだけ録音してある場合は[ORCH/3-10]のランプはつきません。
2. 小節、拍を確認しながら、左手でコードを押さえて右手で4分音符または全音符鍵盤を押して、最後まで録音してください。
3. 最後まで録音したら[CHORD SEQUENCE]を押して終了します。

※コード・シーケンスのデータが入力されていないソングに対して、曲の途中からの直しを行なおうとすると、LCDに"DATA NOT EDITABLE !"が表示され録音できません。





多重録音をする

■フォーマットされていない フロッピー・ディスクを入れた場合

“UNFORMATTED DISK 1”が表示されます。72ページの方法でフォーマットしてください。

■ちょっと気をつけて…

[RIGHT/1][LEFT/2][ORCH/3-10][RHYTHM]のどれかのランプが緑色についている場合は、すでにデータが録音されています。別のソング・ナンバーを選ぶか、87ページの方法で演奏データを消してから録音してください。

パフォーマンス・メモリーでは、3-10トラックにも1,2トラックと同様に自分の演奏を録音することができます。

いろいろな楽器ごとにトラックを分け、録音することによって、ひとつの曲として仕上げる多重録音に挑戦してみましょう。

1トラックとリズム・トラックに録音する

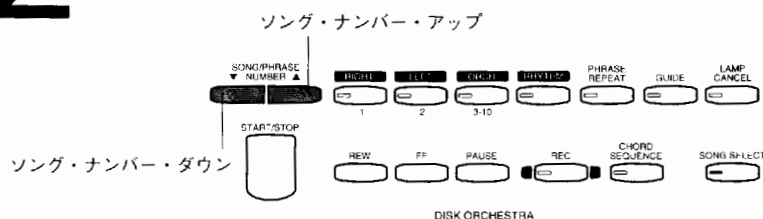
はじめに、リズム・トラックと1トラックをいっしょに録音してみましょう。

1 フォーマット済みのディスクを入れる

フォーマット済みのディスクを差し込みます。[SONG SELECT]のランプがつきます。すでにディスクが入っていて、[SONG SELECT]のランプがついていないときは、ボタンを押してランプをつけます。

2 録音するソング・ナンバーを選ぶ

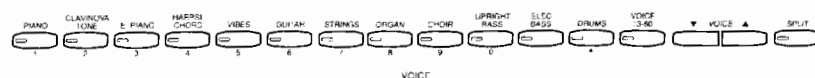
SONG/PHRASE NUMBER[▼][▲]でソング・ナンバーを選びます。



【001】 Piano 1
J= 80 SONG 2 2

3 音色を選ぶ

VOICEボタンで、演奏する音色を選びます。



⑥ KEYBOARD

④ STYLE, TEMPO

③ VOICE

① 3.5" DISK

⑦ START/STOP

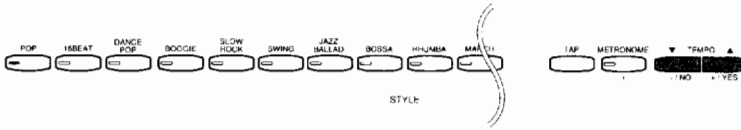
② SONG/PHRASE NUMBER

⑤ REC



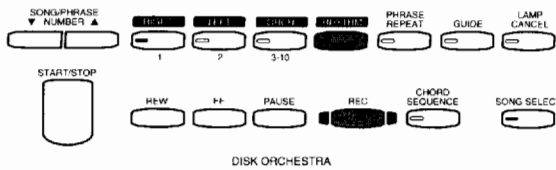
4 スタイルとテンポを決める

スタイルを選び、TEMPO[▼][▲]でテンポを指定します。



5 録音トラックを選ぶ

[REC]を押して、ランプをつけると、自動的に[RIGHT/1]のランプも赤色につきます。さらに、リズム・トラックも録音するので[RHYTHM]を押してランプをつけます。この時メトロノーム音が鳴り出します。



【001】 REC TRACK 1+R 690
♩=120 Pop 1

6 録音する

メトロノーム音に合わせて演奏を始めると、メトロノーム音がスタイルのリズム演奏に変わり、録音が始まります。

7 録音をストップする

[START/STOP]か[REC]を押します。

■ちょっと覚えておこう…

[REC]を押したあとに、音色やスタイルを選び直すことも可能です。このとき、LCDに音色名やスタイル名が表示されます。

■リズム演奏だけで録音を始めたいときは[START/STOP]を押して録音をはじめます。



■録音したトラックの再生をOFFにして別のトラックに録音するには…

再生OFFにしたいトラックのボタンを押して緑のランプを消してから、[REC]を押します。

■演奏を間違えたとき…

間違えたところから演奏を録音しなおすことができます(パンチ・イン/オート・パンチ・アウト・レコーディング)。詳しくは89ページを参照してください。

■バック・アップのお勧め…

ある程度データを録音したら、別のソング・ナンバーにコピーをとっておくことをお勧めします(コピーの操作については83ページを参照してください)。録音中に誤ってデータを消してしまったときでもバック・アップがあれば安心です。

■録音/再生のヒント…

録音/再生のいろいろなヒントが88ページにのっていますので、参考にしてください。

82

■トラックのデータを消したいとき…

[RHYTHM]以外のトラックは[START/STOP]で録音をスタートし、何もしないで録音をストップすると、そのトラックのデータを消すことができます。

[RHYTHM]トラックは、オートアカンパニメントの[RHYTHM]ボリュームを0にして、同じ操作をすると消すことができます。

■モジュレーション・ピッチ・ベンド、エクスプレッションのデータを録音するとき…

AUTO ACCOMPANIMENTのスライダーにこれらの機能を割り当てることができます。(→P107)

■記録される内容は…

初期値、および録音中に記録される内容については91ページを参照してください。

■再生時の音量調節について…

ABCを使わずに多重録音したデータを再生するとき、下記のトラックの割当てで音量を調節できます。

[RHYTHM]ボリューム・コントロール: リズム・トラック

[CHORD 1]ボリューム・コントロール: 14~10トラック

[CHORD 2]ボリューム・コントロール: 1, 2トラック

[BASS]ボリューム・コントロール: 3トラック

2トラックに録音する

今録音した1トラックとリズム・トラックの再生に合わせて、2トラックに録音してみましょう。

1

音色を選ぶ

VOICEボタンで、演奏する音色を選びます。

2

録音トラックを選ぶ

[REC]を押したあと、[LEFT/2]を押すとランプが赤色につきます。このとき、すでに録音されている[RIGHT/1][RHYTHM]は緑のランプがついていることを確認します。

3

録音する

メトロノーム音に合わせて演奏を始めると、録音が始まります。[START/STOP]を押して録音を始めると、再生音をききながら、途中から演奏を始めることができます。

4

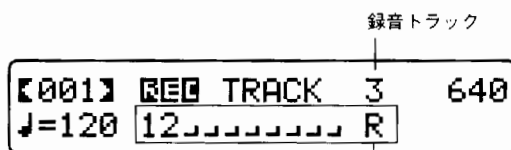
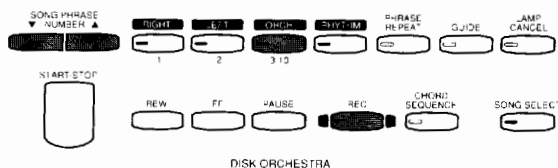
録音をストップする

[START/STOP]か[REC]を押します。

3トラック以降に録音する

3トラック以降にも録音してみましょう。

音色を選び、[REC]を押したあと、[ORCH/3-10]を押します。3トラックが録音トラックとして選ばれます。また、[ORCH/3-10]を押しながらSONG/PHRASE NUMBER[▼][▲]で3~10のトラックを選ぶことができます。



1, 2トラックと同様に録音していきます。

録音トラック

録音済みトラック

③ KEYBOARD

① VOICE

④ START/STOP

② LEFT/2

② REC



フロッピー・ディスクの編集

ソングをコピーしてバックアップをとっておくと、曲を一部変更したいときなど安心して作業が行えます。また、録音している途中でもこまめにコピーをとってバックアップをしましょう。

同じディスク内でソングをコピーする

パフォーマンス・メモリーで録音した曲を別のソング・ナンバーにコピーしてみましょう。

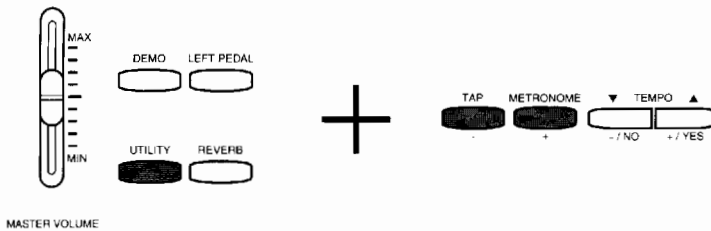
1 ディスクを入れる

2 コピー元の曲を選ぶ

SONG/PHRASE NUMBER[▼][▲]でコピー元の曲を選びます。

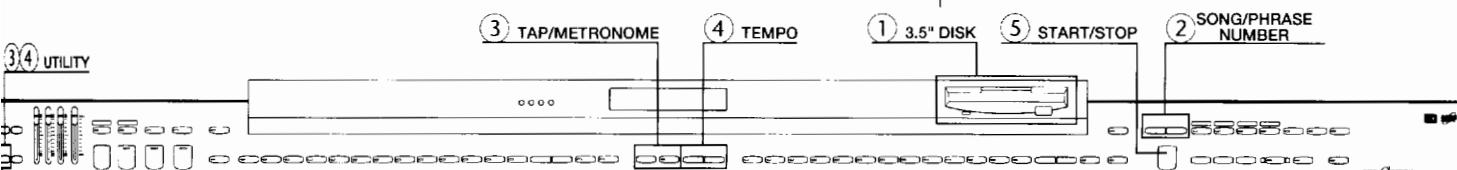
3 コピー機能の画面を呼び出す

[UTILITY]を押しながら[TAP]/[METRONOME]を押して、次の画面を表示させます。



0000▶11 SONG COPY
SONG 01→00 PRESS [START]

■コピー元を選んだソングにデータがなかった場合は、LCDに"NO DATA !"が表示されます。

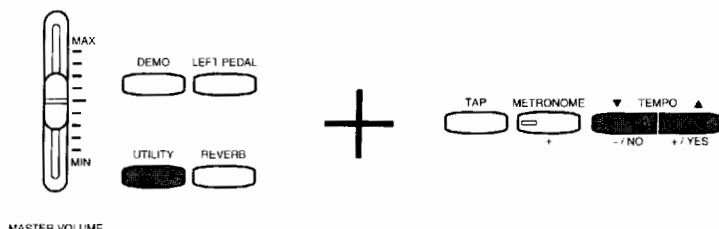




■コピーを途中で中止したいとき…
もう一度[UTILITY]を押します。ただし
コピーの実行が始まってからは中止で
きません。

4 コピー先のソング・ナンバーを選ぶ

[UTILITY]を押したまま、TEMPO[▼][▲]でコピー先のソング・ナン
バー(1~60)を選びます。このあと[UTILITY]を離します。

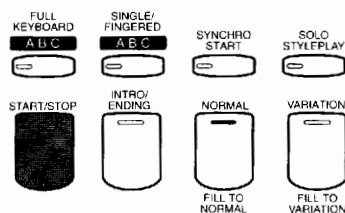


0000▶11 SONG COPY
SONG 01→05 PRESS [START]

コピー先のソング・ナンバー

5 コピーを実行する

[START/STOP]を押します。コピーが実行されます。



0000▶11 SONG COPY
SONG 01→05 WRITING...



0000▶11 SONG COPY
END

コピーが終わると、通常の状態に戻ります(ただし、LCDはコピー先
のソング・ナンバーの表示となり、[SONG SELECT]のランプもつき
ます。)



別のディスクにソングをコピーする

パフォーマンス・メモリーで録音した曲を別のディスクにコピーしてみましょう。

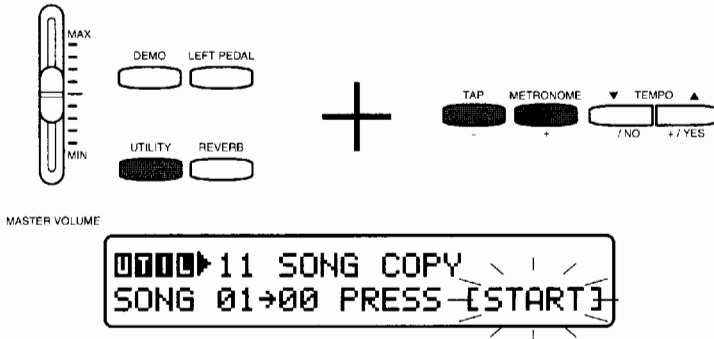
1 コピー元のディスクを入れる

2 コピー元の曲を選ぶ

SONG/PHRASE NUMBER[▼][▲]でコピー元の曲を選びます。

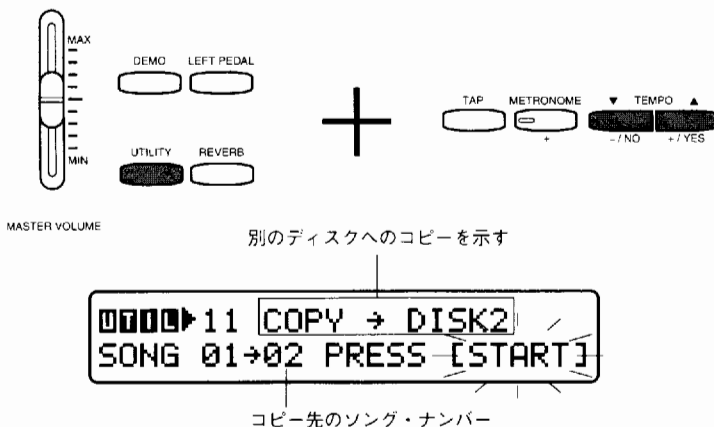
3 コピー機能の画面を呼び出す

[UTILITY]を押しながら[TAP]/[METRONOME]を押して、次の画面を表示させます。



4 コピー先のソング・ナンバーを選ぶ

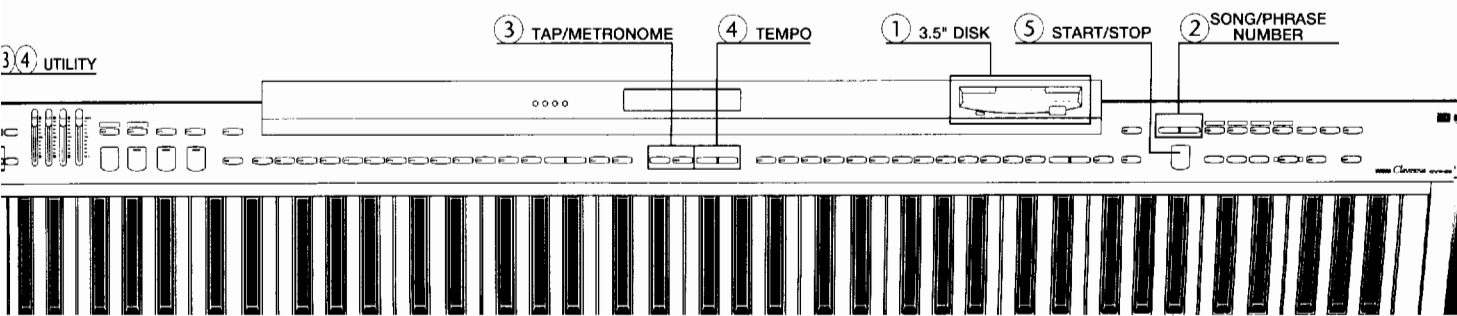
[UTILITY]を押したまま、TEMPO[▼][▲]でコピー先のソング・ナンバーを選びます。別ディスクへのコピーの場合は60以降の番号(DISK 2の01~60)を選びます。このあと[UTILITY]を離します。



■コピー元のソングにデータがなかった場合は、LCDに“NO DATA 1”が表示されます。

85

■コピーを途中で中止したいとき…
もう一度[UTILITY]を押します。コピーの途中でも、ディスクの入れ換え表示(“INSERT DISK 1”または“INSERT DISK 2”)がでているときなら、中止できます。





■コピー先にすでにデータがあるとき…

“ARE YOU SURE?”が表示されます。書き換えてよい場合は、TEMPO[▲](Yes)を押すとコピーが実行されます。書き換えたくない場合は、TEMPO[▼](No)を押してコピーを中止します。

■「ディスク・スタイル」をコピーするとき…

「ディスク・スタイル」も別のディスクへコピーすることができます(1つのディスクに50スタイルまで)。ただし、パフォーマンス・メモリーのディスクやディスク・オーケストラ・コレクションをコピーしたディスクにはコピーできません。また逆に、パフォーマンス・メモリーのデータや「ディスク・オーケストラ・コレクション」は、ディスク・スタイルのデータが入っているディスクにはコピーできません。

■「ディスク・オーケストラ・コレクション」を使ったマイ・レパートリーづくり…

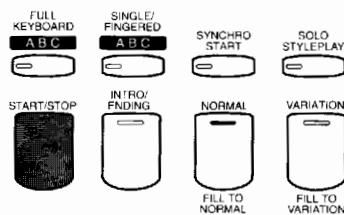
ディスク・オーケストラ・コレクションの曲はまるごとコピーすることはできませんが、オーケストラ・パートと、リズム・パートだけ別のディスクにコピーすることができます。コピーしたオーケストラ・パート、リズム・パートの再生に合わせて自分の演奏を録音し、マイ・レパートリーをつくることができます。詳しくは113ページを参照してください。なお、コピーしてつくったマイ・レパートリーをさらに別のフロッピー・ディスクにコピーすることはできません。

■コピーできないディスクは…

「ピアノプレーヤ・ソフト」やスタンダードMIDIファイルのデータをコピーすることはできません。また、ライト・プロテクトされたディスクへコピーすることはできません。

5 コピーを実行する

[START/STOP]を押します。まず元ディスクのデータがクラブ・ノーバ本体に読み込まれます。LCDには、このあとコピー先ディスクとコピー元ディスクを何回入れ換える必要があるのかが表示されます。



0000▶11 COPY → DISK2
0/3 READING...

入れ換え必要回数

データが読み込まれると次のように「INSERT DISK2」と表示されますので、元ディスクを抜きコピー先のフロッピー・ディスクを入れます。

0000▶11 COPY → DISK2
0/3 INSERT DISK2

このあと、コピー元とコピー先のディスクを交互に入れ換えます。「INSERT DISK1」が表示されたらコピー元のディスクを、「INSERT DISK2」が表示されたらコピー先のディスクを入れます。コピーが終わると、通常の状態に戻ります(ただし、LCDはコピー先のソング・ナンバーの表示となり、[SONG SELECT]のランプもつきます。)



ソングを削除する

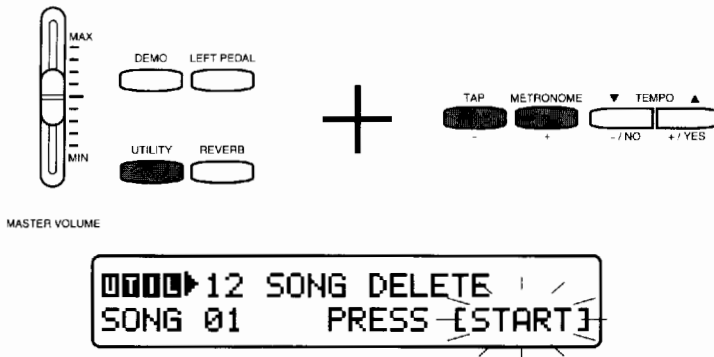
ディスク内の不要になった曲は削除することができます。

1 フロッピー・ディスクを入れる

削除したい曲が入っているディスクを入れます。

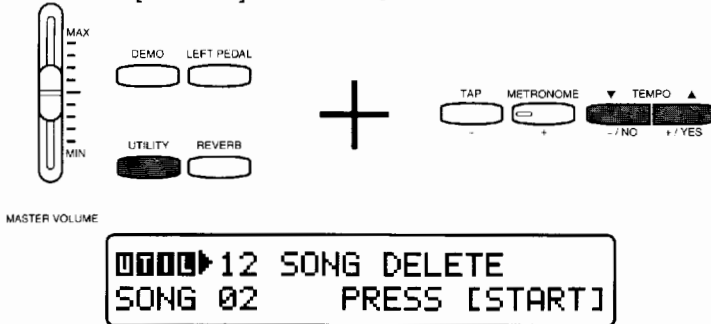
2 曲削除機能の画面を呼び出す

[UTILITY]を押しながら[TAP]/[METRONOME]を押して、次の画面を表示させます。

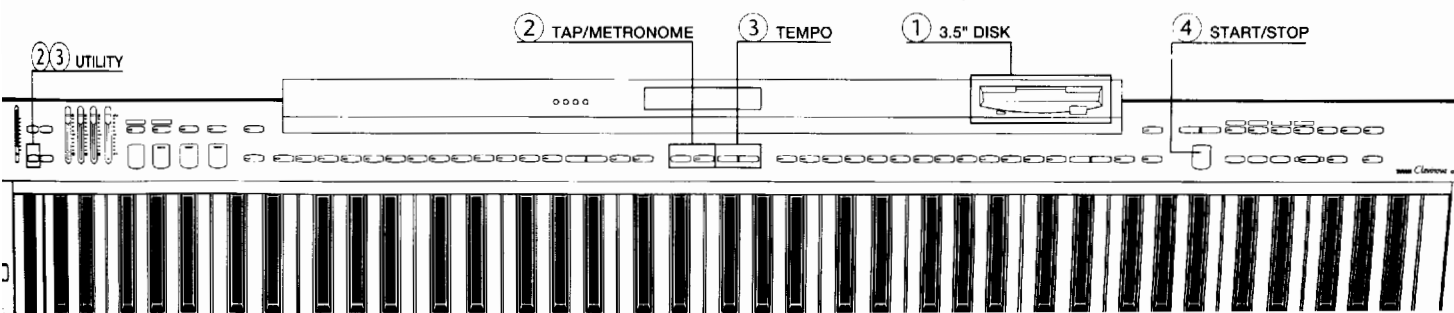


3 削除したいソング・ナンバーを選ぶ

[UTILITY]を押したままTEMPO[▼][▲]で削除したい曲を選びます。このあと[UTILITY]を離します。



■削除を途中で中止したいとき…
もう一度[UTILITY]を押します。ただし削除の実行が始まってからは中止できません。





■ディスクを使わずに本体に録音した曲を削除するとき…

[UTILITY]を押しながら
[TAP]/[METRONOME]を押して曲削除機能の画面を呼び出すと、LCDに“ARE YOU SURE?”が表示されますので、消去してよい場合は、TEMPO[▲](Yes)を押します。

■削除することのできないディスクは…

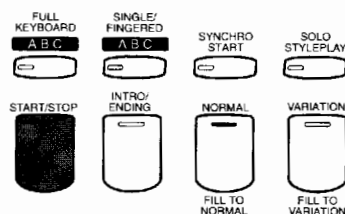
「ディスク・オーケストラ・コレクション」
「ピアノプレーヤー・ソフト」「ディスク・スタイル」
およびライト・プロテクトされたディスクは曲の削除を行なえません。

■ソングにデータがない場合は…

“ARE YOU SURE?”が表示されずに元の状態に戻ります。

4 削除を実行する

[START/STOP]を押すと、LCDに“ARE YOU SURE?”が表示されます。削除してよい場合は、TEMPO[▲](Yes)を押すとLCDが次のように変化し、削除が実行されます。



12 SONG DELETE
SONG 02 START



12 SONG DELETE
SONG 02 END

削除したくない場合は、TEMPO[▼](No)を押して削除を中止します。

削除が終わると、元の状態に戻ります([SONG SELECT]のランプは消えます。)

録音／再生のヒント

■CVP-89で録音されたデータ以外は初期値を変更することはできません。また、SMF変換されたデータも初期値を変更することはできません。“DATA NOT EDITABLE!”が表示されます。DOC音色変換されたデータは、トラックごとのボリュームのみ初期値を変更することができます。

■録音スタンバイ状態にした後で[START/STOP]を押したり、鍵盤をさわったりしないように注意してください。録音が始まってしまうと、そのトラックの録音済みのデータが消えてしまいます。

■ボリュームは最初に録音した時の音量より大きくすることはできません。

■トラックごとのボリュームの調整…
手順1.2のあとリズム・トラックは[RHYTHM]ボリュームで設定します。
それ以外のトラックは[UTILITY]を押しながら[BASS]ボリュームで設定します。
なお、応用機能17(→P102)を使えば、録音したデータを再生させながら変更し、変更した値を初期ボリュームとして書き換えることができます。

■トラックごとのリバーブの深さの調整…

手順1.2のあと[REVERB]を押しながら、[BASS]ボリュームで設定します。
[REVERB]を押しながらTEMPO[▼][▲]でそのソング全体のリバーブの深さを設定することもできます。

パフォーマンス・メモリーで曲を作るときに、覚えておくと便利な機能を紹介します。

初期値の変更

録音が終わったあとで、トラックごとに別々にボリュームを調節したり、その他の初期値を変更することができます。変更できる内容は91ページの「録音されるデータ内容」を参照してください。

1 2 3 4

[REC]を押してランプをつけます。

変更するトラックを選んで、録音をスタンバイします。

変更したい初期値をパネルで操作します。

もう一度[REC]を押してランプを消すと、録音済みの曲の初期値が変更されます。



録音を部分的にやり直す

(パンチ・イン／オート・パンチ・アウト・レコーディング)

演奏を間違えたりした場合でも、部分的に録音をやり直すことができます。

1 [START/STOP]で再生を始め録音をやり直したい場所の少し手前で [PAUSE]を押して一時停止させます。
[REW][FF]を使って場所を指定することもできます。

2 [REC]を押します。

3 やり直したいトラックを選びます。

4 [START/STOP]で再生を始め、録音したいところからタイミングを合わせて演奏を始めます。

5 やり直したい部分の演奏が終わったところで、[START/STOP]または[REC]を押して録音を終了します。それ以降のデータは保存されています。

■ちょっと気をつけて…

リズム・トラック、ABC、ソロ・スタイルプレイに関しては、パンチ・イン・レコーディングはできません。

89

各トラックの途中からのデータの消し方

1 [START/STOP]で再生を始め、消したいところでポーズさせます。

2 [REC] を押し、消したいトラックを選びます。

3 消したいトラックのボタンを押しながら[START/STOP]を押します。

4 もう一度[START/STOP]を押せば完了します。

■ちょっと気をつけて…

リズム・トラック、ABC、ソロ・スタイルプレイに関しては、途中からデータを消すことはできません。



■この場合、パネル音色で録音したソング・ナンバーには録音できません。また、GMモードで録音したソングにパネル音色で録音することもできません。“DATA NOT EDITABLE!”が表示されます。

■GMモードでの録音では、内蔵のスタイルは使えません。

■GMモードでボイス・ナンバーの129～136を選ぶと、打楽器音が録音できます。[RHYTHM]を押すと、ボイス・ナンバー129～136のドラム・キットが自動的に選ばれます。また、リズム・トラックとして自動的にトラック10が選ばれます。

■GMモードでは、[ORCH/3-10]を押しながらSONG/PHRASE NUMBER[▲][▼]を押してトラックを選ぶ操作では、トラック3～9までを選ぶことになります。トラック10は[RHYTHM]を押すことによって選ばれます。

■録音したデータのクオンタイズについて...

どんなに演奏の上手な人でも、リズムにピッタリ合わせて演奏するのはなかなか難しいものです。そこで、クオンタイズと言って録音したデータを設定した分解能に応じて、リズムにピッタリ合わせてくれる機能を使うことができます。
→応用機能UTIL15 (P100)

■トラック・ミックスについて...

ソング内の2つのトラックのデータをミックスして1つのトラックにまとめることもできます。

→応用機能16 (P101)

GM音色を使った録音

応用機能26のマルチティンバー・モード(P121)でGMモードに設定しておけば、パフォーマンス・メモリーの録音をGM音色によって行なうことができます。

コード・シーケンスを使う

リズムに合わせた演奏に慣れていなかったり、コードをあまり知らない人でも、コード・シーケンスを使えば簡単に1曲のバックアップを完成させることができます。78ページを参照してください。

再生時に使える機能

パフォーマンス・メモリーの演奏でも、3～10トラックの個別の再生ON/OFF機能(P112参照)やガイド機能(P62参照)A-Bリピート機能(P67参照)が使えます。ガイド機能は、トラック1と2に有効です。



録音されるデータ内容

トラックごとに記録されるデータ

データ	初期値	録音中	録音後の初期値変更	操作
押鍵情報	×	○	×	押鍵
音色	○	○	○	VOICEボタン / [VOICE13-60]
デュアル音色	○	○	○	VOICEボタン + {VOICEボタン / [VOICE13-60]}
スプリット音色	○	○	○	[SPLIT] + {VOICEボタン / [VOICE13-60]}
ボリューム	○	×	○	[UTILITY] + [BASS] ボリューム (リズム・トラックは [RHYTHM] ボリューム)
エクスプレッション	×	○	×	[UTILITY] + [BASS] ボリューム または [BASS] ボリューム (応用機能設定時)、 または エクスプレッション・ペダル (リズム・トラックは除く)
パン	○	○	○	[UTILITY] + [RHYTHM] ボリューム
ダンパー・ペダル	○	○	○	ダンパー・ペダル
ソフト・ペダル	○	○	○	レフト・ペダル (ペダル機能をソフトに設定時)
ソステヌート・ペダル	×	○	×	ソステヌート・ペダル
モジュレーション	○	○	○	[RHYTHM] ボリューム (応用機能設定時)
ピッチ・ベンド	○	○	○	[CHORD1] / [CHORD2] (応用機能設定時) レフト / センター・ペダル (ペダル機能を ピッチ・ベンドに設定時)
リバーブの深さ	○	○	○	[REVERB] + [BASS] ボリューム
デュアル・バランス	○	○	○	VOICEボタン + {VOICEボタン / [VOICE13-60]} + TEMPO [▼] [▲]
スプリット・バランス	○	○	○	[SPLIT] + TEMPO [▼] [▲]
コーラスON/OFF	○	○	○	(応用機能設定)
ピッチ・ベンド レンジ	×	○	×	(応用機能設定)

- [A] + [B] = [A] を押しながら[B]を操作する。
- [A] / [B] = [A] または [B] を操作する。

■**ボリュームの初期値について...**
最初に録音したときは、MIDIの127の値に固定されて録音されます。

■**ボリュームとエクスプレッションは**
同じ操作となりますが、MIDIデータが異なります。



■ABCボリュームの初期値を変更する場合…

[REC]を押してランプをつけた後、
[FULL KEYBOARD][SINGLE/FINGERED]
のどちらかを押してABC録音の状態に
してから、行ってください。

曲全体共通で記録されるデータ

データ	初期値	録音中	録音後の 初期値変更	操作
伴奏スタイルの種類	○	○	×	STYLEボタン、[DISK STYLE1または2]
リズム・ボリューム	○	○	○	[RHYTHM] ボリューム
リバーブの種類	○	○	○	[REVERB]
リバーブの深さ	○	○	○	[REVERB] + TEMPO [▼] [▲]
テンポ	○	○	○	TEMPO [▼] [▲]
イントロ	○	×	×	[INTRO/ENDING]
エンディング	×	○	×	[INTRO/ENDING]
フィル・イン	○	○	×	[FILL TO NORMAL] / [FILL TO VARIATION]
ABCの種類	○	×	×	[SINGLE/FINGERED] / [FULL KEYBOARD]
ABCボリューム	○	○	○	[CHORD1]ボリューム、[CHORD2]ボリューム、 [BASS] ボリューム
ソロ・スタイルプレイ	○	×	×	[SOLO STYLEPLAY]
ソロ・スタイルプレイ のパターン	○	×	×	[SOLO STYLEPLAY] + STYLEボタン

MIDI録音の場合のみ記録されるデータ

(トラックごとに記録されます。)

データ	初期値	録音中	録音後の 初期値変更	操作
コース・チューン coarse tune	×	○	×	MIDIのみ
ファイン・チューン fine tune	×	○	×	MIDIのみ



応用機能(ユーティリティ、その他)

ここではCVP-89の応用機能(ユーティリティ・ファンクション)とその他の活用法を紹介します。

93

他の機器と接続する	94
応用機能(ユーティリティ・ファンクション)	95
その他の便利な機能	112



他の機器と接続する

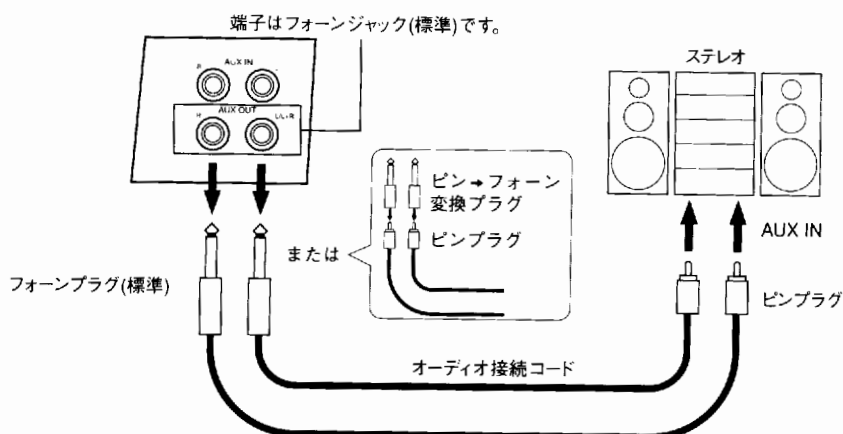
ペダル部横の各端子を使った他の機器との接続方法を説明します。
 なお、ヘッドフォン端子についてはP5、MIC.端子についてはP32、
 EXP PEDALについてはP42、MDI端子についてはP119をご覧ください。

AUX出力端子を使う

オーディオ接続コードを使って下図のように接続すると、ステレオなどからより大きな音を出したり、演奏を録音したりできます。ステレオに接続したときは、[MASTER VOLUME]を半分くらいにして、ステレオのボリュームで音量調節してください。

■注意…

AUX出力端子から出力した音を、決してAUX入力端子に戻さないでください。

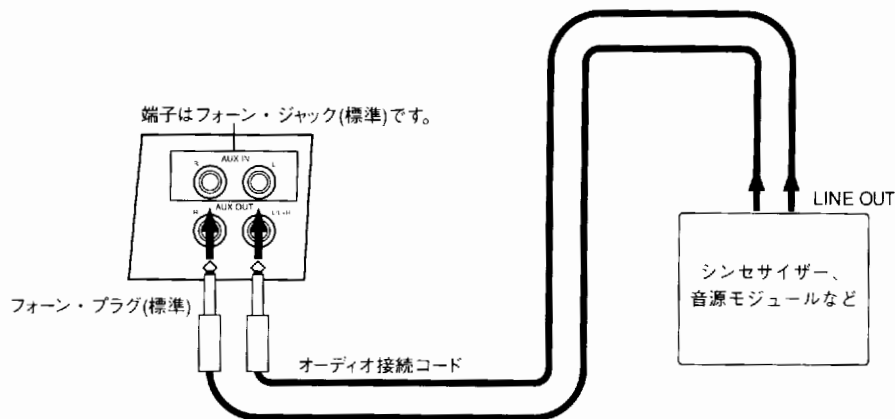


AUX入力端子を使う

オーディオ接続コードを使って下図のように接続すると、他の楽器や機器の音をCVP-89のスピーカーから出すことができます。

■ちょっと覚えておこう…

AUX入力端子から入力した外部機器の音も、CVP-89の音と一緒にAUX出力端子から出力されますが、CVP-89の音量コントロールやリバーブは効きません。



■オーディオ接続コード及び変換プラグは抵抗のないものをお使いください。



応用機能(ユーティリティ・ファンクション)

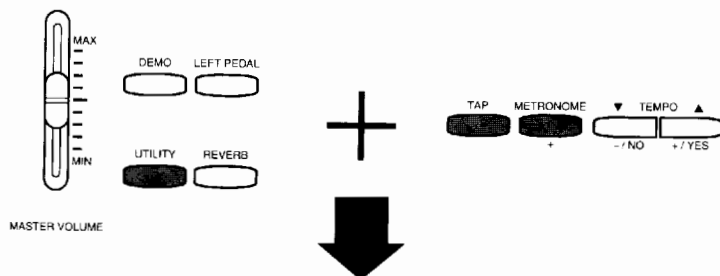
CVP-89の各機能についてさらに細かい設定が行なえるよう、さまざまな応用機能が用意されています。この応用機能を目的に応じて使い分けることで、CVP-89をより身近な楽器、より高度な楽器としてご利用いただけます。

CVP-89の応用機能は基本的には以下のようにグループ分けされています。

- 応用機能01 (UTIL01) : トランスポーズ(移調)の設定
- 応用機能02~04 (UTIL02~04) : エフェクトに関する機能
- 応用機能05~14 (UTIL05~14) : ディスクに関する機能
- 応用機能15~20 (UTIL15~20) : パフォーマンス・メモリーに関する機能
- 応用機能21~31 (UTIL21~31) : MIDIに関する機能
- 応用機能32~44 (UTIL32~44) : その他の応用機能

設定のしかた

1 [UTILITY]を押しながら、[TAP]または[METRONOME]を繰り返し押して設定したい機能を選びます。



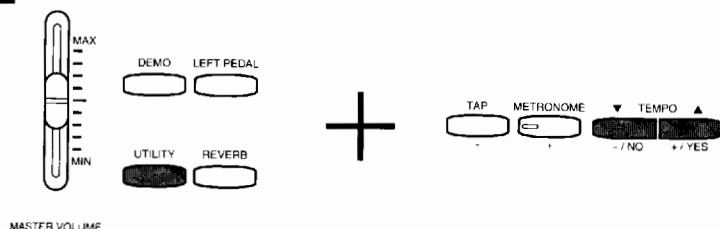
応用機能01: トランスポーズ(移調)の設定

応用機能02: コーラスON/OFF

⋮

応用機能44: 簡易調性判断機能

2 そのまま[UTILITY]は押したままで、TEMPO[▼][▲]を押してYES(ON)/NO(OFF)や数値を設定します。



■ちょっと覚えておこう...

ユーティリティの画面がLCDに出ている間に[UTILITY]を繰り返し押して、順送りで応用機能の画面を切り換えることもできます。

■[UTILITY]を押しながら以下のSTYLEボタンを押すことにより、各グループの最初の機能をダイレクトに呼び出すこともできます。

- ・[POP]→応用機能02
- ・[16BEAT]→応用機能05
- ・[DANCE POP]→応用機能15
- ・[BOOGIE]→応用機能21
- ・[SLOW ROCK]→応用機能32

■[UTILITY]を押したときは...

前回使用した応用機能の画面が表示されます。

■電源を入れたときは...

応用機能01のトランスポーズの設定画面が表示されます。

■応用機能05~20

フロッピー・ディスクをフロッピー・ディスク・ドライブに挿入していないときには使えません。

■応用機能21~30

(MIDIに関する機能)は...

[UTILITY]を押しながら、VOICEボタンの1[PIANO]~10[UPRIGHT BASS]を押すことでダイレクトに各画面を選択することもできます。(→P120)



各応用機能と設定できる内容

UTIL01: トランスポーズ(移調)の設定

前述P28をご覧ください。

UTIL02: コーラス効果のON/OFF

CVP-89では工場出荷時にいくつかの音色に対して、コーラス効果がかかるように設定しています。ここでは好みに応じて、音色ごとにコーラス効果のON/OFFを設定することができます。

0000▶02 CHORUS
Piano OFF

UTIL03: 共鳴効果デプスの設定

[PIANO]音色(音色ナンバー1)での共鳴効果(→P21)のデプス(かかり具合)を0(効果なし)～15(最大)の範囲で設定できます。

0000▶03 SOUNDBOARD DEPTH
8

UTIL04: マイク・リバーブ量の設定

CVP-89に接続したマイクからの出力にかかるリバーブ量を0(効果なし)～15(最大)の範囲で設定することができます。(→P32)

0000▶04 MIC REVERB DEPTH
8

UTIL05: パネル状態の保存

レジストレーション機能で登録した12種類のパネル上の設定状態をそのままフロッピー・ディスクに記憶させることができます。

データを記憶させたいディスクをフロッピー・ディスク・ドライブに挿入し、P95の"設定のしかた"の手順1を行なったあと、下記の操作に進みます。

2

続けて[UTILITY]は押したままで、TEMPO[▼][▲]を押してデータを保存するソング・ナンバーを選択し、[START/STOP]を押します。

0000▶05 REGIST → DISK /
SONG 02 PRESS-[START]

[START/STOP]を押すとLCDが次のように変化します。記憶が終わると自動的にもとの状態に戻ります。

0000▶05 REGIST → DISK
SONG 02 START



0000▶05 REGIST → DISK
SONG 02 END

■工場出荷時の音色ごとの設定リストはP150を参照してください。

■コーラス効果の設定は…
電源をOFFにした後も約1週間バックアップされます。

■ちょっと覚えておこう…
コーラス効果のON/OFFは、デュアルの場合、LCDで左側に表示される音色の設定が有効となり、スプリットの場合、LCDで右側に表示される音色(高音部の音色)の設定が有効となります。

■工場出荷時には…
8の値が設定されています。

■共鳴効果デプスの設定は…
電源をOFFにした後も約1週間バックアップされます。

■電源を入れたときは…
いつも自動的に8の値が設定されます。

■ちょっと覚えておこう…
ディスクにプロテクトがかかっていた場合、"DISK PROTECTED!"が表示されます。

■ソング・ナンバーとなっていますが、ここではデータを記憶する領域のナンバーと考えてください。

■記憶される内容については…
P33のレジストレーション機能をご参照ください。



UTIL06:パネル状態の再現

UTIL05の機能でフロッピー・ディスクに記憶させたレジストレーション・データを、CVP-89上に読み込み再現できます。

再現させたいレジストレーション・データの入ったディスクをフロッピー・ディスク・ドライブに挿入し、P95の"設定のしかた"の手順1を行なったあと、下記の操作に進みます。

2 続けて[UTILITY]は押したままで、TEMPO[▼][▲]を押して再現させたいデータの記録されたソング・ナンバーを選択し、[START/STOP]を押します。

0000▶06 DISK → REGIST /
SONG 02 PRESS [START]

[START/STOP]を押すとLCDが次のように変化します。CVP-89にデータが読み込まれると自動的にもとの状態に戻ります。なお、レジストレーション・データの呼び出しについては前述P96をご覧ください。

0000▶06 DISK → REGIST
SONG 02 START



0000▶06 DISK → REGIST
SONG 02 END

■ソング・ナンバーとなっていますが、ここではデータを記憶させた領域のナンバーと考えてください。
データの無いソング・ナンバーには、"NO DATA !"が表示されます。

UTIL07:鍵盤ごとのチューニング状態の保存

UTIL32(後述P106)で設定した鍵盤ごとのチューニング状態をそのままフロッピー・ディスクに記憶させることができます。

チューニング状態を記憶させたいディスクをフロッピー・ディスク・ドライブに挿入し、P95の"設定のしかた"の手順1を行なったあと、下記の操作に進みます。

2 続けて[UTILITY]は押したままで、TEMPO[▼][▲]を押してデータを記憶させたいソング・ナンバーを選択し、[START/STOP]を押します。

0000▶07 IND. KEY → DISK
SONG 02 PRESS [START]

[START/STOP]を押すとLCDが次のように変化します。記憶が終わると自動的にもとの状態に戻ります。

0000▶07 IND. KEY → DISK
SONG 02 START



0000▶07 IND. KEY → DISK
SONG 02 END

■ソング・ナンバーとなっていますが、ここではデータを記憶させたい領域のナンバーと考えてください。

■ちょっと覚えておこう…

ディスクにプロテクトがかかっていた場合、"DISK PROTECTED !"が表示されます。



■ソング・ナンバーとなっていますが、ここではデータを記憶させた領域のナンバーと考えてください。
データの無いソング・ナンバーには、"NO DATA !"が表示されます。

■読み込んだチューニングのデータが、そのときCVP-89本体にあったデータと同一だった場合は、「UTIL 32: 鍵盤ごとのチューニング」のモードは自動的にオンになりません。

■ソング・ナンバーとなっていますが、ここではデータを記憶させたい領域のナンバーと考えてください。

■ちょっと覚えておこう…
ディスクにプロテクトがかかっていた場合、「DISK PROTECTED !」が表示されます。

UTIL08: 鍵盤ごとのチューニング状態の再現

UTIL07の機能でフロッピー・ディスクに記憶させた鍵盤ごとのチューニング状態を、CVP-89上に読み込み再現できます。

再現させたいチューニング状態のデータが入ったディスクをフロッピー・ディスク・ドライブに挿入し、P95の"設定のしかた"の手順1を行なったあと、下記の操作に進みます。

2 続けて[UTILITY]は押したままで、TEMPO[▼][▲]を押して再現させたいデータの記録されたソング・ナンバーを選択し、[START/STOP]を押します。

0000▶08 DISK → IND. KEY
SONG 02 PRESS [START]

[START/STOP]を押すとLCDが次のように変化します。CVP-89にデータが読み込まれると自動的にもとの状態に戻り、そのチューニングになります。(「UTIL 32: 鍵盤ごとのチューニング」のモードが自動的にオンになります。)

0000▶08 DISK → IND. KEY
SONG 02 START



0000▶08 DISK → IND. KEY
SONG 02 END

UTIL09: カスタム・リズム・データの保存

カスタム・リズム機能で作成した12種類のデータをそのままフロッピー・ディスクに記憶させることができます。

カスタム・リズム・データを記憶させたいディスクをフロッピー・ディスク・ドライブに挿入し、P95の"設定のしかた"の手順1を行なったあと、下記の操作に進みます。

2 続けて[UTILITY]は押したままで、TEMPO[▼][▲]を押してデータを記憶させたいソング・ナンバーを選択し、[START/STOP]を押します。

0000▶09 C. RHYTHM → DISK
SONG 02 PRESS [START]

[START/STOP]を押すとLCDが次のように変化します。記憶が終わると自動的にもとの状態に戻ります。

0000▶09 C. RHYTHM → DISK
SONG 02 START



0000▶09 C. RHYTHM → DISK
SONG 02 END



UTIL10:カスタム・リズム・データの再現

UTIL09の機能でフロッピー・ディスクに記憶させたカスタム・リズム・データを、CVP-89上に読み込み再現できます。

再現させたいカスタム・リズム・データが入ったディスクをフロッピー・ディスク・ドライブに挿入し、P95の"設定のしかた"の手順1を行なったあと、下記の操作に進みます。

2 続けて[UTILITY]は押したままで、TEMPO[▼][▲]を押して再現させたいデータの記録されたソング・ナンバーを選択し、[START/STOP]を押します。

0000▶10 DISK → C. RHYTHM
SONG 02 PRESS [START]

[START/STOP]を押すとLCDが次のように変化します。CVP-89にデータが読み込まれると自動的にもとの状態に戻ります。なお、カスタム・リズムの演奏についてはP56をご覧ください。

0000▶10 DISK → C. RHYTHM
SONG 02 START



0000▶10 DISK → C. RHYTHM
SONG 02 END

UTIL11:ソングのコピー

前述P83をご覧ください。

UTIL12:ソングの削除

前述P87をご覧ください。

UTIL13:ディスクのフォーマット

前述P72をご覧ください。

UTIL14:SMF(スタンダードMIDIファイル)モード切り換え

スタンダードMIDIファイルの再生時に、ノーマルSMF再生かGM音色SMF再生かを選択できます。GM音色SMF再生が設定されていると、どんなSMFデータもGM音源で再生されます。また、ノーマルSMF再生の設定時はSMFデータにGM onメッセージがない限り、通常のパネル音色で再生されます。

0000▶14 SMF VOICE MODE
GM

GM音色SMF再生

0000▶14 SMF VOICE MODE
NORMAL

ノーマルSMF再生

■ソング・ナンバーとなっていますが、ここではデータを記憶させた領域のナンバーと考えてください。
データのないソング・ナンバーには、"NO DATA!"が表示されます。

■電源を入れた時は…
GM音色SMF再生になっています。

■ノーマルSMF再生を設定しておけば…
外部シーケンサー等でCVP-89のパネル音色を使って録音したSMFディスクを、CVP-89のディスク・ドライブで再生する時に有用です。



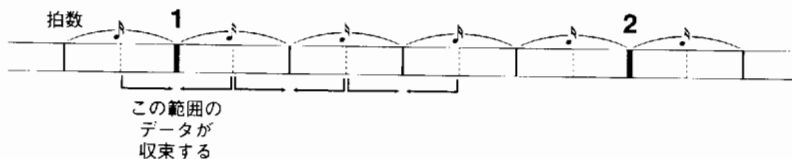
■ちょっと覚えておこう…

ディスクにライト・プロテクトがかかっていた場合、"DISK PROTECTED !"が表示されます。

■手順3、4の操作中に[UTILITY]を押すとクオンタイズが中止され、もとの状態に戻ります。

UTIL15:録音データのクオンタイズ

パフォーマンス・メモリーで録音したデータのタイミングを、設定した分解能に応じて、リズムにピッタリ合わせてくれる機能です。



パフォーマンス・メモリーのディスクを挿入し、クオンタイズを行いたいソングを選んだ状態で、P95の"設定のしかた"の手順1を行なったあと、下記の操作に進みます。

2

続けて[UTILITY]は押したままで、TEMPO[▲](+/YES)を押すと、次の表示に変わります。

TRACK
QUANT. OFF PRESS [START]

これから先の操作では、[UTILITY]を離してもかまいません。

3

TEMPO[▼][▲]でクオンタイズする分解能を選択します。

クオンタイズの分解能

TRACK
QUANT. 16 PRESS [START]

- OFF クオンタイズOFF
- 6 2拍3連、Jでクオンタイズ
- 8 8分音符でクオンタイズ
- 12 3連符、Jでクオンタイズ
- 16 16分音符でクオンタイズ
- 24 3連符、Jでクオンタイズ
- 32 32分音符でクオンタイズ

4

[TAP]/[METRONOME]でクオンタイズするトラックを選択します。

クオンタイズするトラック

TRACK
QUANT. 16 PRESS [START]

5

[START/STOP]を押すとクオンタイズが開始され、LCDは次のように変化します。クオンタイズが終了すると、自動的にもとの状態に戻ります。



小節番号を表示

■一度録音データのクオンタイズを行なうと…

もとの状態に戻すことはできません。あらかじめコピーをしてもとのデータを残しておくと安心です。

■CVP-89/87/85/83で録音されたデータ以外はクオンタイズできません。また、DOC音色変換やSMF変換されたデータもクオンタイズできません。



UTIL16:録音データのトラック・ミックス

パフォーマンス・メモリーで録音したソング内の、あるトラックのデータと別のトラックのデータをミックスすることができます。

パフォーマンス・メモリーのディスクを挿入し、トラック・ミックスを行ないたいソングを選んだ状態で、P95の"設定のしかた"の手順1を行なったあと、下記の操作に進みます。

2

続けて[UTILITY]は押したままで、TEMPO[▲](+/YES)を押すと、次の表示に変わります。

0000▶16 TRACK MIX
1+ 1→ 1 PRESS [START]

これから先の操作では、[UTILITY]を離してもかまいません。

3

[TAP]/[METRONOME]でミックス元のトラックを選択します。

0000▶16 TRACK MIX
2+ 1→ 1 PRESS [START]

ミックス元

4

TEMPO[▼][▲]でミックス先のトラックを選択します。

0000▶16 TRACK MIX
2+ 3→ 3 PRESS [START]

ミックス先

5

[START/STOP]を押すとトラック・ミックスが開始され、LCDは次のように変化します。トラック・ミックスが終了すると、自動的にもとの状態に戻ります。

0000▶16 TRACK MIX 2+ 3→ 3 START → 0000▶16 TRACK MIX 2+ 3→ 3 10 → 0000▶16 TRACK MIX 2+ 3→ 3 END

小節番号を表示

■ちょっと覚えておこう…

ディスクにライト・プロテクトがかかっていた場合、"DISK PROTECTED !"が表示されます。

■手順3、4の操作中に[UTILITY]を押すとトラック・ミックスが中止され、もとの状態に戻ります。

■一度録音データのトラック・ミックスを行なうと…

ミックス先のデータはもとの状態に戻ることができません。あらかじめコピーをしてもとのデータを残しておくで安心です。

■初期値はミックス先のデータが有効です。ただしデータのないトラックをミックス先にした場合は、ミックス元の初期値がコピーされます。

■CVP-89/87/85/83で録音されたデータ以外はトラック・ミックスはできません。また、DOC音色変換やSMF変換されたデータもトラック・ミックスはできません。



■LCDに表示されるトラック・ナンバーについて…
10～16トラックはA～Gのアルファベットで表示されます。

■パフォーマンス・メモリーで録音したときには各トラック共、常に127が記録されています。

■CVP-89で録音されたデータ以外は、初期ボリューム値を書き換えることはできません。また、SMF変換されたデータも書き換えることはできません。

■このモードでは…
テンポを変更したり、通常の録音は行なえません。

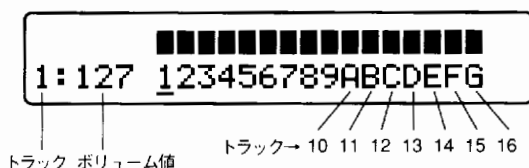
■このモードの中にいるときにソング・ナンバーを変えると、このモードは自動的にOFFになり、元の状態に戻ります。

UTIL17:録音データのボリューム・コントロール

パフォーマンス・メモリーで録音したソングの各トラックのボリュームを、再生させながら変更することができます。また、変更した値を初期ボリューム値として完全に書き換えることも可能です。

パフォーマンス・メモリーのディスクを挿入した状態で、[SONG SELECT]のランプがついていることを確認し、ボリューム・コントロールを行ないたいソングを選んでおきます。P95の"設定のしかた"の手順1を行なったあと、下記の操作に進みます。

2 続けて[UTILITY]は押したままでTEMPO[▲]または[▼]を押して、ボリューム・コントロール・モードをONにしてください。[UTILITY]を離すと次の表示に変わります。



3 [TAP]/[METRONOME]でボリューム・コントロールしたいトラックを選択します。



4 TEMPO[▼][▲]でそのトラックのボリューム(0～127)を変更します。



5 [REC]を押すと、次の表示に変わります。



そのトラックのボリュームを初期ボリューム値として書き換えたい場合はTEMPO[▲](+/YES)を、キャンセルしたいときはTEMPO[▼](-/NO)を押してください。

6 ボリューム・コントロール・モードを終了するときは、再度、[UTILITY]を押しながらTEMPO[▲]または[▼]を押してモードONをOFFにしてください。





UTIL18: ソング・ネームの書き込み

パフォーマンス・メモリーで録音したソングに、ソング・ネームを入力することができます。

パフォーマンス・メモリーのディスクを挿入した状態で、P95の"設定のしかた"の手順1を行なったあと、下記の操作に進みます。

2

続けて[UTILITY]は押したままで、TEMPO[▲](+/YES)を押すと、現在選ばれている曲のソング・ネームが表示されます。

SONG 01 NAME
SONG 1

これから先の操作では、[UTILITY]を離してもかまいません。

3

[TAP]/[METRONOME]でソング・ナンバーを選択します。

SONG 15 NAME
SONG 15

4

TEMPO[▼][▲]でカーソルを移動し、入力文字位置を決めたら、各文字、数字、記号に対応した鍵盤(次ページ参照)を押して入力します。これを繰り返して、最大12文字までのソング・ネームを入力していきます。

SONG 15 NAME
SONG 15

5

[START/STOP]を押すと、ソング・ネームの登録が完了し、通常の状態に戻ります。

■まだ、ソング・データが録音されていない場合は…

"NO SONG DATA"が表示されます。

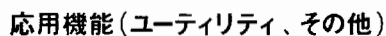
■データがあってもソング・ネームをつけてない場合は…

「SONG 1」「SONG 2」...と表示されます。

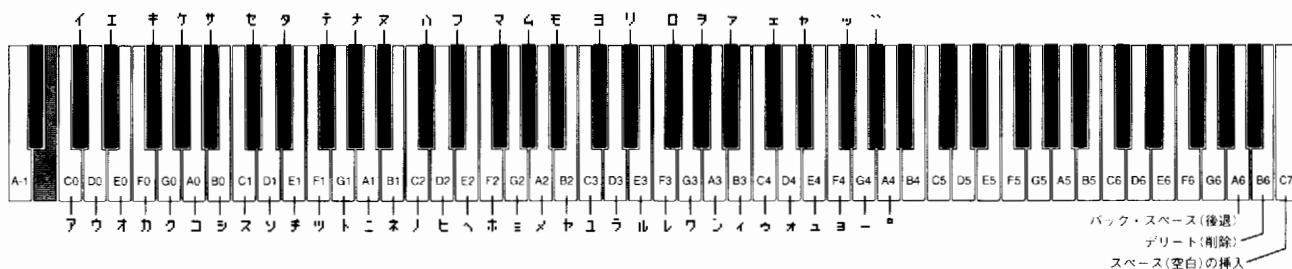
■入力すると…

自動的にカーソルが次の入力位置に移動します。ダンパー・ペダルを踏みながら入力すると、カーソルが移動しないで文字の選択ができます。

■手順3、4の操作中に[UTILITY]を押すとソング・ネームの入力が中止され、元の状態に戻ります。

[illegible]

104



右端の白鍵3つを使って、修正作業が行なえます。

- ・A6:バック・スペース(後退)
- ・B6:デリート(削除)
- ・C7:スペース(空白)の挿入

■CVP-89/87/85/83で録音されたデータ
以外は、ソングネームの書き込みはで
きません。



UTIL19:DOC音色変換

パフォーマンス・メモリーで録音したデータ(ディスク上のデータ)をCVP-75/65/55/70/50、CLP-705、DOU-10、DOM-30で再生できるように、音色配列を変換する機能です。

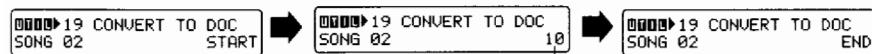
DOC音色変換をしたいディスクをフロッピー・ディスク・ドライブに挿入し、P95の"設定のしかた"の手順1を行なったあと、下記の操作に進みます。

2

続けて[UTILITY]は押したままで、TEMPO[▼][▲]を押して変換したいソング・ナンバーを選択し、[START/STOP]を押します。

0000▶19 CONVERT TO DOC
SONG 02 PRESS-[START]

[START/STOP]を押すとLCDが次のように変化します。変換が終わると自動的にもとの状態に戻ります。



小節番号を表示

UTIL20:SMF変換

パフォーマンス・メモリーで録音したデータ(ディスク上のデータ)を他のシーケンサー等で利用できるよう、スタンダードMIDIファイルに変換する機能です。

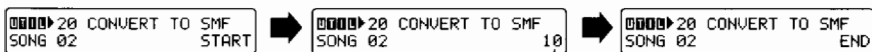
SMF変換をしたいディスクをフロッピー・ディスク・ドライブに挿入し、P95の"設定のしかた"の手順1を行なったあと、下記の操作に進みます。

2

続けて[UTILITY]は押したままで、TEMPO[▼][▲]を押して変換したいソング・ナンバーを選択し、[START/STOP]を押します。

0000▶20 CONVERT TO SMF
SONG 02 PRESS-[START]

[START/STOP]を押すとLCDが次のように変化します。変換が終わると自動的にもとの状態に戻ります。



小節番号を表示

■ちょっと覚えておこう...

ディスクにライト・プロテクトがかかっていた場合、"DISK PROTECTED!"が表示されます。

■一度、変換されたデータは...

もとに戻すことができません。あらかじめコピーをしてもとのデータを残しておく安心です。また、変換されたソングでは「UTIL15:録音データのクオンタイズ」や、「UTIL16:録音データのトラック・ミックス」はできません。

■ディスク・オーケストラ・コレクション、ピアノプレーヤ・ソフト、ディスク・スタイル、SMFデータ、すでに変換済みのデータ、GM音色で録音したパフォーマンス・メモリーのデータ、プロテクトのかかったディスクは変換できません。"DISK PROTECTED!"または"INCOMPATIBLE DATA!"が表示されます。また、ディスクなしで作成された曲は変換できません。

■クラビノーバのモデルによって持っている音色が異なりますので、一部イメージの異なる音色に変換されることもあります。

■CVP-87/85/83/75/65/55/70/50、CLP-705、DOU-10、DOM-30で録音したディスクは、そのままでもCVP-89で再生することができます。(ただし、一部音色やリズム/ABCが異なって再生されることがあります。)

■変換すると、JAZZ ORGAN 2の音色は1オクターブ上がります。

■ちょっと覚えておこう...

ディスクにライト・プロテクトがかかっていた場合、"DISK PROTECTED!"が表示されます。

■一度、変換されたデータは...

もとに戻すことができません。あらかじめコピーをしてもとのデータを残しておく安心です。また、変換されたソングに録音することはできません。また、「UTIL15:録音データのクオンタイズ」や「UTIL16:録音データのトラック・ミックス」もできません。

■ディスク・オーケストラ・コレクション、ピアノプレーヤ・ソフト、ディスク・スタイル、すでに変換済みのデータ、プロテクトのかかったディスクは変換できません。"DISK PROTECTED!"または"INCOMPATIBLE DATA!"が表示されます。また、ディスクなしで作成された曲は変換できません。



■手順2で操作を中止したいときは…
もう一度[UTILITY]を押してください。
もとの状態に戻ります。

■電源を入れた時は…
いつも自動的にオフに設定されます。

■設定に関して…

LCDを見ながら設定します。なお、アップ／ダウンできる音程の範囲は、前述(→P29)と同じ-50セント(表示:-44)～0セント(表示:+0)～+50セント(表示:+44)です。
アップ／ダウン・モードでは、ピッチ・コントロールしたい鍵盤を押したあと、TEMPO[▼][▲]で設定することもできます。TEMPO[▼][▲]を同時に押すと、一度に0に戻ります。

■アップ／ダウンモードで設定した調律データは、電源をオフにするまで消えませんので、いつでもモードのオン(アップ／ダウン)、オフを切り換えて使うことができます。ただし、電源をオフにした時点で設定したデータは消えますので、残しておきたい場合はフロッピー・ディスクに保存して下さい。(→P97)

"UTIL21:MIDI送信チャンネルの設定"から"UTIL31:GMドラム・キット切り換え"まではすべてMIDIに関する応用機能です。MIDIについてはP117からの解説をご覧ください。

UTIL32:鍵盤ごとのチューニング

鍵盤ごとに音程(ピッチ)を微調整できます。CVP-89は、工場出荷時にはそれぞれの音色に合わせた調律カーブに設定されていますが、この機能を使って好みの調律を作ることができます。

P95の"設定のしかた"の手順1を行なったあと、下記の操作に進みます。

2

続けて[UTILITY]は押したままで、TEMPO[▲](+/YES)を押すと、次の表示に変わります。

INDIVIDUAL KEY TUNE
OFF

これから先の操作では、[UTILITY]を離してもかまいません。

3

[TAP]/[METRONOME]を押してチューニング設定モードを選びます。

INDIVIDUAL KEY TUNE
OFF

INDIVIDUAL KEY TUNE
ON(UP) ___=+ 0

INDIVIDUAL KEY TUNE
ON(DOWN) ___=+ 0

オフ・モード(標準値に戻す) : 全鍵盤の音程が標準の0になります。

アップ・モード(音程を上げる) : ピッチ・コントロールしたい鍵盤を押すごとに、その鍵盤の音程が約1.2セントずつ上がります。

ダウン・モード(音程を下げる) : ピッチ・コントロールしたい鍵盤を押すごとに、その鍵盤の音程が約1.2セントずつ下がります。

4

チューニングを行ないたい鍵盤を1度だけ押します。押した鍵盤の高さ(音程)とその鍵盤の現在のチューニング値がLCDに表示されます。

INDIVIDUAL KEY TUNE
ON(UP)

C 3=+ 0

設定モード

音程 チューニング値

5

続けて、その鍵盤を押すごとに1ステップずつチューニング値が変化します。(アップ・モードでは1ステップずつ音程が上がり、ダウン・モードでは1ステップずつ音程下がります。1ステップ=約1.2セント)

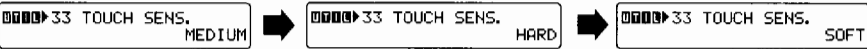
6

手順3から5を繰り返して、他の鍵盤のチューニングを行ないます。チューニングの操作を終了するときは、もう一度[UTILITY]を押してください。



UTIL33: タッチ感度の選択

弾く強さに対する音の出かた(音の強弱の変化の度合い)を、3種類の中から選ぶことができます。演奏する曲や好みによって使い分けてください。



- ミディアム : 標準的なタッチです。
- ハード : ピアニッシモからフォルティッシモまでダイナミックな演奏ができるタッチです。
- ソフト : 比較的音のつづがそろいやすいタッチです。

- 電源を入れた時は…
いつも自動的にミディアムに設定されます。
- 鍵盤自体の重さは変わりません。

UTIL34: アカンパニメント・ボリュームのモード切り換え

アカンパニメント・ボリュームの働きを次の3種類の中から選ぶことができます。

機能1: 通常のアカンパニメント・ボリューム・コントローラーとして働きます。ABC、ディスク・オーケストラ、パフォーマンス・メモリー、その他のデータ再生時でコントロールされるパートはそれぞれ次のとおりです。

34 ACCOMP. VOLUME

1

	ABC演奏	パフォーマンス メモリー (ABC 無)	パフォーマンス メモリー (ABC 有)	ディスク オーケストラ コレクション	ESEQ SMF (GMモード以外)
RHYTHM	リズム演奏	リズム再生	リズム再生	リズム再生	CH15再生
CHORD 1	コード1演奏	CH4 -10再生	コード1再生	CH4 -10再生	CH4 -14再生
CHORD 2	コード2演奏	CH1、2再生	コード2再生	CH1、2再生	CH1、2再生
BASS	ベース演奏	CH3 再生	ベース再生	CH3 再生	CH3 再生

機能2: 各ボリューム・コントローラーが、モジュレーション/ピッチ・ベンド・アップ/ピッチ・ベンド・ダウン/エクスプレッション・コントローラーとして働きます。

34 ACCOMP. VOLUME

2

	コントロール
RHYTHM	モジュレーション
CHORD 1	ベンド UP
CHORD 2	ベンド DOWN
BASS	エクスプレッション

機能3: 各ボリューム・コントローラーが各パートごとのリバーブの深さ設定のコントローラーとして働きます。ABC、ディスク・オーケストラ、パフォーマンス・メモリー再生時でコントロールされるパートはそれぞれ次のとおりです。

34 ACCOMP. VOLUME

3

	ABC演奏	パフォーマンス メモリー (ABC 無)	パフォーマンス メモリー (ABC 有)	ディスク オーケストラ コレクション
RHYTHM	リズムの深さ	リズムの深さ	リズムの深さ	リズムの深さ
CHORD 1	コード1の深さ	CH4 -10の深さ	コード1の深さ	CH4 -10の深さ
CHORD 2	コード2の深さ	CH1、2の深さ	コード2の深さ	CH1、2の深さ
BASS	ベースの深さ	CH3 の深さ	ベースの深さ	CH3 の深さ

- 電源を入れた時は…
いつも自動的に機能1に設定されます。

■電源を入れた時は…

SET TEMPO(自動切り換えON)になっています。

■電源を入れた時は…

自動設定ONになっています。

■この設定をOFFにしておくと、[SYNCHRO START]を手で押してONにした後、演奏を開始してストップしても、シンクロ・スタートはスタンバイされません。(自動的にOFFに戻ります。)

■電源を入れた時は…

ランダム再生OFFになっています。

■デモ演奏の場合は、デモ演奏をスタンバイする前にON/OFFを設定してください。

■電源を入れた時は…

CONTINUOUS(連続可変式:踏み込むほど余韻が長くなる)になっています。

UTIL35:スタイルのテンポ自動切り換えのON/OFF

リズム停止中にスタイルを選んだ時、自動的に各スタイルに設定されている標準テンポへ切り換わる(SET TEMPO)か、切り換わらない(KEEP TEMPO)かを設定することができます。

0000▶35 STYLE TEMPO
SET TEMPO

スタイルのテンポ自動切り換えON

0000▶35 STYLE TEMPO
KEEP TEMPO

スタイルのテンポ自動切り換えOFF

UTIL36:シンクロ・スタート自動設定のON/OFF

ABCをONにした時、シンクロ・スタートが自動的に設定される(ON)か、設定されない(OFF)かを選択することができます。

0000▶36 ABC SYNC. START
ON

自動設定ON

0000▶36 ABC SYNC. START
OFF

自動設定OFF

UTIL37:ランダム全曲リピート(曲順不同)再生

ランダム全曲リピート再生をONにして、デモ演奏やディスク・オーケストラ・コレクションの全曲リピート再生を始めると、曲順不同でリピート再生させることができます。BGM代わりに使うときなどに便利です。

0000▶37 RANDOM PLAY
OFF

ランダム再生OFF

0000▶37 RANDOM PLAY
ON

ランダム再生ON

UTIL38:ダンパー・ペダル連続/スイッチ切り換え

ダンパー・ペダルを連続可変式で使うか、ON/OFFスイッチ式で使うか選択できます。パフォーマンス・メモリーの録音時などはON/OFFスイッチ式で使用すれば、連続可変式で使った場合に比べてメモリーを節約することができます。

0000▶38 DAMPER PEDAL
CONTINUOUS

連続可変式

0000▶38 DAMPER PEDAL
SW

ON/OFFスイッチ式



UTIL39: ピッチ・ベンド・レンジ切り換え

ピッチ・ベンド・レンジを音色ごとに100セント～1200セント(100セント単位)の中から設定することができます。ここでの設定は、左のペダルとまん中のペダルまたはアカンパニメント・ボリュームの[CHORD 1][CHORD 2]をピッチ・ベンド・コントローラーとして使用する場合に有効となります。P95の"設定のしかた"の手順に入る前に、ピッチ・ベンド・レンジを設定したい音色をあらかじめ選んでおきます。

0000▶39 PITCH BEND RANGE
100Cent

100セント=半音

UTIL40: キーボード・パーカッション用ドラムス設定の切り換え

キーボード・パーカッションの打楽器音色ごとにドラム・キットの切り換え(ノーマル/プロセスト)、リバーブの深さ、パンの設定を行なうことができます。CVP-89は、工場出荷時にはそれぞれの打楽器音色に合わせたリバーブやパンが設定されていますが、この機能を使って好みの値を設定することができます。

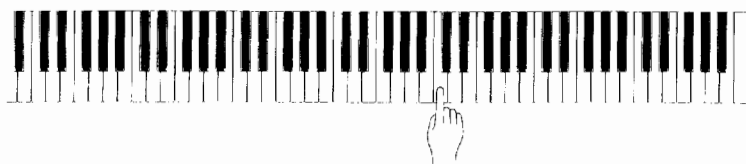
P95の"設定のしかた"の手順1を行なったあと、下記の操作に進みます。

2 続けて[UTILITY]は押したままで、TEMPO[▲](+/YES)を押すと、次の表示に変わり、音色は自動的に[DRUMS]になります。(この機能に入る前に選ばれていたスタイルで使われているキットになります。)

0000▶40 EDIT DRUM INST.
PRESS [DRUM KEY]

これから先の操作では、[UTILITY]を離してもかまいません。

3 設定を行ないたい打楽器音色に対応した鍵盤を押します。



■工場出荷時には…

音色ごとにそれぞれのピッチ・ベンド・レンジが設定されています。(→P150)

■電源を切ったあとも…

ピッチ・ベンド・レンジの設定は電源をオフにしたあとも約1週間バックアップされます。

■ちょっと覚えておこう…

デュアルの場合、LCDで左側に表示される音色のピッチ・ベンド・レンジが有効となり、スプリットの場合、LCDで右側に表示される音色(高音部の音色)のピッチ・ベンド・レンジが有効となります。

■ちょっと気をつけよう…

各音色の推奨音域を越えた領域でピッチ・ベンド操作を行なうと、予想しない音が出ることがあります。

■[DRUMS]音色のノーマル・キット、プロセスト・キットのリストは154ページをご覧ください。

■手順2、3で操作を中止したいときは…

もう一度[UTILITY]を押してください。もとの状態に戻ります。

■ちょっと気をつけて...

一度にリバーブの深さ設定は16打楽器、キット切り換えとパン設定は8打楽器に対して行なえます。もし、それ以上の打楽器音に対して設定しようとすると、"TOO MANY"が表示されます。スタイルによっては使われているキットの一部の打楽器がはじめからエディットされているため、ここで設定できる打楽器の数が減る場合があります。

■ちょっと覚えておこう...

GMモード時はこのキーボード・パーカッション用ドラムス設定の切り換えを行なうことはできません。"DATA NOT EDITABLE!"が表示されます。

■初期値に戻すには...

一度変更した打楽器音のリバーブの深さ／パン設定を初期値に戻したいときは、その打楽器音を選んだ状態でTEMPO[▲]と[▼]を同時に押します。

4

[TAP]/[METRONOME]を押して設定モードを選び、TEMPO[▼][▲]で値を設定します。

```

EDIT DRUM INSTRUMENT
BD Norm    KIT:    NORMAL
  
```

打楽器名 設定モード 値

キット切り換えモード：NORMAL(ノーマル・キット)かPROCESSED(プロセスト・キット)に切り換えることができます。

```

EDIT DRUM INSTRUMENT
BD Norm    KIT:    NORMAL
  
```

このキット切り換えモードで一番右側の鍵盤(C7)を押すと、LCDの打楽器名に"ALL"が表示されます。この状態でTEMPO[▲][▼]を押してNORMAL/PROCESSEDを選ぶと、一度にキット全体を切り換えることができます。"ALL"が選ばれると、リバーブの深さやパンの設定はすべての打楽器が初期値に戻り、リバーブの深さやパンの設定は行えません。このあと個々の打楽器を選んでリバーブの深さやパンの設定を行うことができます。

リバーブの深さ設定モード：リバーブの深さを0～15の範囲で設定することができます。

```

EDIT DRUM INSTRUMENT
BD Norm    REV DEPTH: 0
  
```

パン設定モード：パンをLEFT6(左端)～CENTER(まん中)～DEFAULT(電源ON時の設定)～RIGHT6(右端)の範囲で設定することができます。

```

EDIT DRUM INSTRUMENT
BD Norm    PAN:    DEFAULT
  
```

5

必要に応じて手順3、4を繰り返し、他の打楽器音に対しても設定を行ないます。

設定の操作を終了するときは、もう一度[UTILITY]を押してください。

■電源を入れた時は...

オクターブ・アップONになっています。

UTIL41:スプリット以下のオクターブ・アップのON/OFF

スプリット演奏時に低音部に設定した「DRUMS(音色No.12)」[BASS(音色No.10,11,49,50,51,52)]以外の音色が自動的に1オクターブ・アップする機能のON/OFFを設定できます。

```

0000▶41 SPLIT-L OCTAVE
                        + 1
  
```

オクターブ・アップON

```

0000▶41 SPLIT-L OCTAVE
                        0
  
```

オクターブ・アップOFF



UTIL42:レジストレーションのテンポ連動モード

各レジストレーションを呼び出したときに、レジストレーションごとに設定したテンポに連動する(SET TEMPO)か、連動しないで現在のテンポのまま(KEEP TEMPO)かを設定することができます。

0000▶42 REGIST. TEMPO
SET TEMPO

テンポ連動モードON

0000▶42 REGIST. TEMPO
KEEP TEMPO

テンポ連動モードOFF

UTIL43:ミュート機能

ABC演奏時のミュート機能(P48)のON/OFFを設定できます。

0000▶43 ABC AUTO MUTE
ON

ミュート機能ON

0000▶43 ABC AUTO MUTE
OFF

ミュート機能OFF

UTIL44:簡易調性判断機能

ABC演奏時の簡易調性判断機能(P48)のON/OFFを設定できます。

0000▶44 7th CHORD IN min
NORMAL

簡易調性判断機能OFF

0000▶44 7th CHORD IN min
CHORD TONE

簡易調性判断機能ON

■電源を入れた時は…
SET TEMPO(テンポ連動モードON)になっています。

■電源を入れた時は…
ミュート機能ONになっています。

■電源を入れた時は…
NORMAL(機能OFF)になっています。



その他の便利な機能

■GMモードONのデータをもつファイルを再生すると、CVP-89の音源は自動的にGM System Level 1の音色配列になります。

■SMFのデータを再生する場合は...

通常、自動的にGMモードで再生されます。なお、この自動切り換えを行わずにすることもできます。

→応用機能UTIL.14(P99)

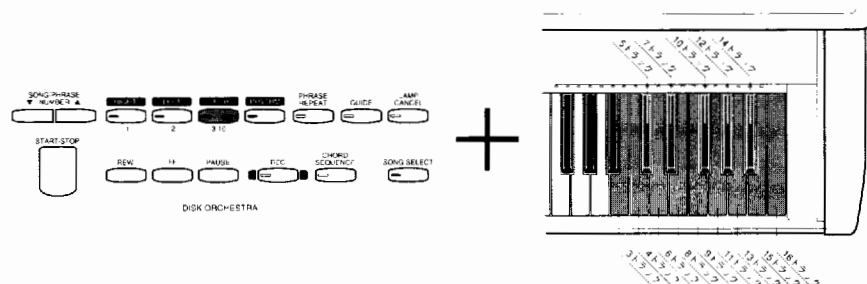
再生するパートを個別にON/OFFする

ディスク・オーケストラをはじめパフォーマンス・メモリー、ピアノプレーヤ、ESEQ、スタンダードMIDIファイル(SMF)の再生するパートをひとつひとつON/OFFすることができます。

[RIGHT/1][LEFT/2][ORCH/3-10][RHYTHM]のそれぞれを押すことにより再生をON/OFFできるパートを示します。

	RIGHT/1TH	LEFT/2TR	ORCH/3-10TR	RHYTHM
ディスク オーケストラ	右手パート	左手パート	オーケストラ パート	リズムパート
パフォーマンス メモリー	1トラック	2トラック	3-10トラック	リズムパート
ピアノプレーヤ ソフト	右手パート	左手パート	—	
ESEQ, SMF (GM以外)	1トラック	2トラック	3-14トラック	15トラック
ESEQ, SMF (GMモード)	1トラック	2トラック	3-9、11-16 トラック	10トラック

[ORCH/3-10]を押しながら、図の対応する鍵盤を押すと、それぞれの3-10トラックの再生ON/OFFが切り換えられます。ESEQは3-15トラック、スタンダードMIDIファイルは3-16トラックの再生ON/OFFが切り換えられます。



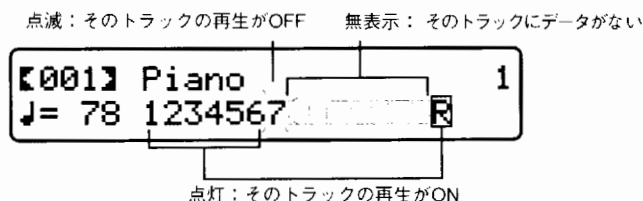
■トラックの表示について...

再生させるデータによって、LCDのトラック表示が1~9, A, B, C, D, E, R (=1トラック~15トラック)となるものと、1~9, A, B, C, D, E, F, G (=1トラック~16トラック)となるものがあります。また、DOC、パフォーマンス・メモリー、ピアノプレーヤ・ソフトのデータでは、データのあるトラックだけがLCDに表示されますが、他のタイプのデータの多くはデータの有/無にかかわらず、全トラックが表示されます。

■ちょっと覚えておこう...

[ORCH/3-10]を押しながら[TAP]/[METRONOME]を押して、LCDに表示されているカーソルを動かしてトラックを選び、続けて[ORCH/3-10]を押したままTEMPO[▲][▼]を押して、そのトラックの再生ON/OFFを切り換えることもできます。

[ORCH/3-10]を押している間、次のようにLCDにトラックの再生ON/OFF状態が表示されます。



[ORCH/3-10]を押している間、それぞれのパートに対応する鍵盤ガイドランプがON/OFFの状態を表示します。

点灯：そのトラックの再生がON
点滅：そのトラックの再生がOFF
無表示：そのトラックに再生データがない



マイ・レパートリーをつくる

ディスク・オーケストラをバックに自分の演奏を録音することができます。ディスク・オーケストラのオーケストラとリズム・パートを別のディスクにコピーすることができます。(右手パートと左手パートは自動的にはずしてコピーされます。) これに合わせてメロディ・パートを自分の演奏で録音すると、自分だけのレパートリー(マイ・レパートリー)ができあがります。

1 85ページの方法で、ディスク・オーケストラ・コレクションのオーケストラとリズム・パートを別のディスクにコピーします。

2 SONG/PHRASE NUMBERの[▼][▲]でコピーしたソングを選択します。

3 VOICEボタンで、自分で演奏する音色を選びます。

4 [REC]を押したあと、録音するトラック[RIGHT/1]または[LEFT/2]を選びます。

5 [START/STOP]で録音をスタートします。ディスク・オーケストラに合わせて、右手パート、左手パートを演奏してください。

6 [START/STOP]または[REC]を押して録音をストップします。

■ディスク・オーケストラをコピーすると、JAZZ ORGAN 2の音色は1オクターブ下がります。

■ちょっと気をつけて…

ディスク・オーケストラをコピーして作ったマイ・レパートリーをさらに別のフロッピー・ディスクにコピーすることはできません。

■録音について…

シーケンサーで録音されていたプログラム・チェンジがそのまま録音されますので、CVP-89の音色ナンバーに合うようにあらかじめシーケンサー側でCVP-89の音色ナンバーに合うように録音しておいてください。シーケンサー側のMIDIチャンネル15のパートがリズム・トラックになりますので、あらかじめキーボード・パーカッションのノート・ナンバーに合わせておいてください。

マルチ・トラック録音

シーケンサーやコンピューターなどで多重録音したデータを、MIDIを使ってCVP-89のディスクに録音することができます。

1 MIDI接続する

送信側の機器(シーケンサー等)のMIDI OUTと、CVP-89のMIDI INをMIDIケーブルでつなぎます。CVP-89には録音用のディスクをセットしておきます。

2 MIDIクロックを外部に設定する

P122を参照して、MIDIクロックを外部(MIDI IN)に設定します。これでCVP-89は外部からのMIDIクロックによってコントロールされます。

3 ソング・ナンバーを選ぶ

SONG/PHRASE NUMBER[▼][▲]で録音するソング・ナンバーを選びます。

4 マルチ・トラック録音をスタンバイする

[UTILITY]を押しながら[REC]を押すと、マルチ・トラック録音がスタンバイされます。これで各トラック(1~15)が送信側のMIDIチャンネルのナンバーと一致して、同時に録音される状態です。(MIDIチャンネル1で送られてくるものがトラック1へ、MIDIチャンネル2で送られてくるものがトラック2へ…それぞれ同時録音されます。)

【001】	GE0	TRACK ALL	680
J=	78	Pop	1

5 拍子とテンポを設定する

STYLEボタンで、録音するデータに合う拍子(4/4、3/4等)を持ったスタイルを選び、TEMPO[▼][▲]で録音するデータに合うテンポを設定します。

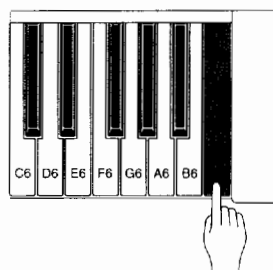


6 録音スタート/ストップ

送信側の機器(シーケンサー等)で再生をスタートすると、同期して録音が始まり、再生が終わると自動的にストップします。

工場出荷時の状態に戻す

C7(一番右側の鍵盤)を押しながらパワー・スイッチをONにすると、以下のデータを一括して工場出荷時の状態に戻すことができます。



- ・レジストレーション・メモリーのデータ
- ・[DISK STYLE 1]と[DISK STYLE 2]に記憶されているスタイルのデータ
- ・カスタム・リズムのデータ
- ・ピッチ・ベンド・レンジのデータ
- ・コーラスON/OFFのデータ
- ・共鳴効果デプスのデータ

■マルチ・トラック録音中には...

CVP-89の内蔵スタイルを演奏させることはできません。

■ちょっと覚えておこう...

CVP-89の鍵盤で弾いたメロディや設定変更データはトラック1に録音(記録)されます。なお、パネルの初期設定値は、録音スタンバイ中に設定操作を行わないと記録されません。

■マルチ・トラック録音を開始すると...

それ以前に記録されていた各トラックのデータは消去されます。

■GM音色でのマルチ・トラック録音...

GMマルチティンバー・モードをON(P121)にしてマルチ・トラック録音を行なう場合や、録音するデータにGM onメッセージが入っていた場合はGM音色で録音されます。この場合、1-14トラックに録音することができます。

■マルチ・トラック録音を終了したら...

マルチ・ティンバー・モード(P121)やMIDIクロックの設定(P122)を元に戻しておきましょう。

■ちょっと気をつけて...

カスタム・リズムのデータは、工場出荷時には何も登録されていませんので、この操作をすると、登録してあるオリジナルのデータが消え、データのない状態になります。